

HONDA

The Power of Dreams



Environmental Annual Report

Honda 環境年次レポート

2009

[データ・事例集]



Hondaの環境情報公開について

Hondaでは、環境に関する情報を『CSRレポート』や『Honda環境年次レポート』、環境に関するウェブサイト(<http://www.honda.co.jp/environment>)で公開しております。『CSRレポート』のなかでは、Hondaの環境に関する情報の概要をわかりやすく公開し、『Honda環境年次レポート』では、Hondaの環境に関する基本姿勢・将来への方向性ととも、環境に関する年度実績を中心とした情報を、より詳細に記載しています。ウェブサイトでは、それら概要から詳細までの情報を網羅するとともに、Hondaの環境に関する歴史といった情報まで包含して紹介しています。

2009年度版より、『Honda環境年次レポート』は、『Honda環境年次レポート2009』と『Honda環境年次レポート2009 データ・事例集』(以下、『データ・事例集』と省略)の2部構成とし、ウェブサイトで公開しております。なお、『Honda環境年次レポート2009』は印刷冊子もご用意しております。

印刷冊子は今までよりも環境への取り組みに対するPDCA(Plan, Do, Check, Act)の一環としての役割を強めた構成となっており、『データ・事例集』は、印刷冊子内の情報を補完する内容、各領域の具体的な取り組みの紹介および各種製品や各事業所の詳細な環境負荷物質排出データ等が含まれます。なお、『Honda環境年次レポート』は、Honda独自のガイドラインに基づいてまとめています。

幅広い情報公開をすることで、Hondaは皆様とのコミュニケーションを円滑に図り、忌憚のないご意見をいただくことで、環境保全活動をさらに向上させていきたいと考えています。

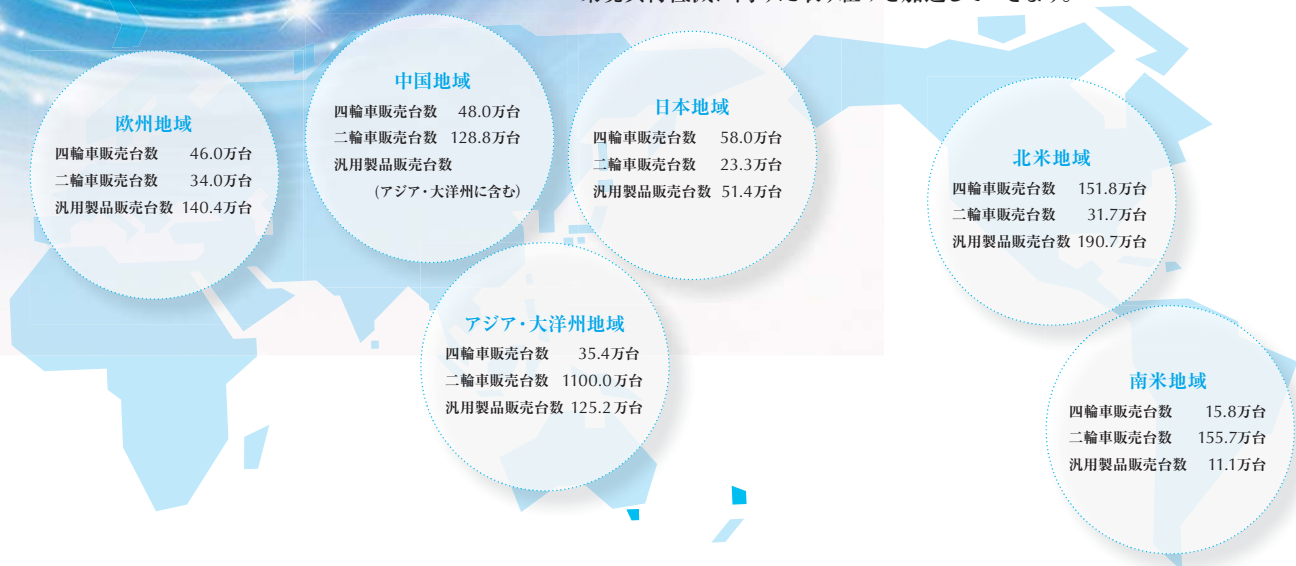


Global Operation and Marketplace

世界6極体制で事業を展開

Hondaは「需要のあるところで生産する」との考えのもと、世界6極体制で生産活動を行っています。2008年度は約2,300万台の製品を販売し、お客様のもとにお届けしました。事業活動によって与える環境への影響を配慮し、Hondaはグローバルで環境負荷低減に向けた取り組みを進めています。

2006年には、自動車業界初の試みとして、全世界で展開する2010年CO₂低減目標を発表し(P.12)、これまで以上に気候変動問題に対する積極的な姿勢を打ち出しました。Hondaはグローバル企業として、“最もCO₂排出の少ない企業活動を通じて、最もCO₂排出の少ない製品をお客様にお届けし続ける”という夢をめざし、全世界で一丸となって、環境負荷低減に向けた取り組みを加速していきます。



グローバル各地域の製品販売台数(2008年度)

CONTENTS

4-13

日本国内での取り組み

商品開発領域	4
購買領域	7
輸送領域	7
製品の資源循環・3R領域	9
オフィス領域	12
関連情報	
社会活動領域	13

14-23

Hondaグループの事例紹介

マイクログリッドで新エネルギーを最大限に活用	14
(株)本田技術研究所四輪R&Dセンター	
水のフル循環システムを目指して	16
ホンダエンジニアリング(株)	
グリーンファクトリーで実施されている環境施策	18
本田技研工業(株)栃木製作所	
太陽光発電システムの導入後の工夫で効率が15%アップ	20
都筑製作所	
「チーム・マイナス6%」への参加による環境負荷削減	22
Honda Cars 愛知	
(株)ホンダソルテック社製 太陽光発電システムを導入	23
Honda Cars 水戸	

24-77

関連情報

四輪車環境データ	24
二輪車環境データ	35
汎用製品環境データ	38
ISO・EMAS取得状況	39
国内事業所データ	41
本田技研工業株式会社	41
株式会社本田技術研究所	60
ホンダエンジニアリング株式会社	71
PRTR対象物質(生産領域)	73
各事業所地下水測定結果	74
社会活動実績データ	75

商品開発領域

四輪車の取り組み

2008年度に発売された新型車・フルモデルチェンジ車の平成22年度燃費基準適合機種

平成22年度燃費基準+25%達成車: 3機種	インサイト、フリード(FF車)、 オデッセイ(FF車)の一部
平成22年度燃費基準+10%達成車: 2機種	ライフ(FF車)の一部、オデッセイ(4WD車)の一部
平成22年度燃費基準+5%達成車: 5機種	アコード(FF車)の一部、アコードツアラー(FF車)、フリード (4WD車)、ライフ(FF車)の一部、ライフ(4WD車)の一部、 オデッセイ(FF車)の一部、オデッセイ(4WD車)の一部

騒音の低減

Hondaは加速騒音の低減にも積極的に取り組んでいます。加速騒音の主な音源は、エンジン騒音、吸排気系騒音、タイヤ騒音です。2009年2月発売の新型インサイトでは、下記の技術を採用することにより、加速騒音の音源となるエンジン騒音と吸排気騒音を効果的に抑えて、低騒音レベル(規制値76dB(A)に対して、72dB(A))を実現しています。

主な騒音低減技術

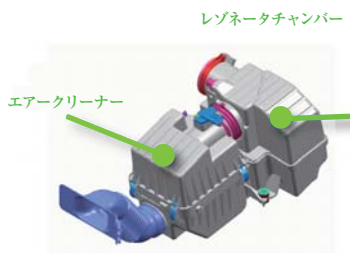
■ エンジン騒音低減技術

- ・高剛性シリンダーブロック
- ・高剛性クランクシャフト
- ・高剛性チェーンケース
- ・ステイフナー一体アルミオイルパン
- ・ボンネットフードインシュレーター
- ・エンジンルームアンダーカバー



■ 吸気音/吸気放射音低減技術

- ・大容量/高剛性エアークリーナー
- ・大容量/高剛性レゾネータチャンバー



■ 排気音低減技術

- ・吸音チャンバー
- ・ロングテールパイプサイレンサー
- ・コンバーター2重ヒートカバー



車室内VOCの低減

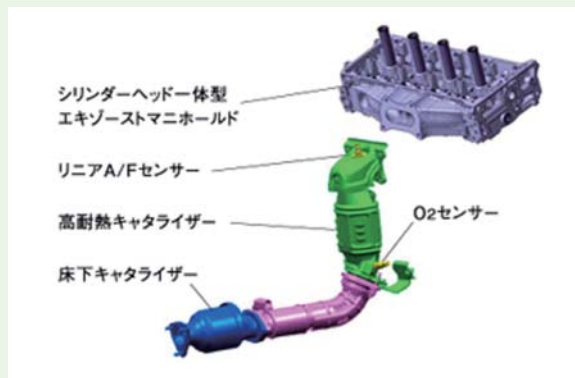
2007年10月より、国内で販売するすべての四輪車で、厚生労働省が定めた室内VOC(Volatile Organic Compounds:揮発性有機化合物)濃度に関する指針値を達成しました。商用車を含むすべての四輪車で指針値を達成するのは、自動車業界で初となります。

その他事例紹介

排出ガスのグリーン化：事例紹介

「オデッセイ」における排出ガス性能の向上

2008年10月に4代目となる「オデッセイ」をフルモデルチェンジし、発売しました。2.4L i-VTECエンジンを搭載する新型「オデッセイ」は、貴金属使用量の削減と排出ガス浄化性能の向上の両立に努めました。新たに、シリンダーヘッド内で燃焼ガスを集合させるエキゾーストマニホールド一体構造とし、その直下に高耐熱キャタライザーを設置するなど排出ガスシステムを刷新し、触媒の貴金属を低減させながら高い排出ガス性能を達成しています。あわせて、リニアA/FセンサーとO₂センサーに加え、エア



フローメーターを採用し、きめ細かく空燃比を制御すると同時に、高霧化インジェクターを採用するなど燃焼ガスそのもののクリーン化を実現しました。これらの技術による排出ガス性能の向上で、新型「オデッセイ」は全タイプにおいて国土交通省「★★★★低排出ガス車」認定を取得しました。1994年の発売以来オデッセイは、2009年2月現在、国内累計販売台数100万台を達成しています。

3R設計：事例紹介

インサイトの樹脂インテークマニホールド

新型インサイトの主動力である1.3L エンジンは、細部にいたるまで徹底して燃費・環境性能を追及しました。軽量化のために、高温であるEGR ガス用の導入口を効率よく配置したEGRプレートを、シリンダーヘッドとインテークマニホールドの間に配置しました。このことで樹脂製のインテークマニホールドの採用が可能となり、軽量化に貢献することができました。



汎用製品の取り組み

家庭用ガスコージェネレーションユニット販売実績

ガスエンジンによる発電と同時にエンジンの排熱を回収して給湯するコージェネレーション(熱電併給)システムは家庭向けの小型化が難しかったのですが、Hondaが2003年に販売した「家庭用小型コージェネレーション(熱電併給)ユニット」は世界最小のガスエンジン「GE160V」と、独自のインバーター技術による発電システムによって小型化を実現しました。この「家庭用小型コージェネレーションユニット」を採用したコージェネレーションシステムは「エコウィル」としてガス会社を通して販売されています。2006年10月には発電効率22.5%、総合エネルギー利用効率85.5%に向上させた新モデルを投入しました。「エコウィル」の2008年度の販売台数は20,021台でした。日本国内での2003年3月からの累計販売台数は86,285台に達しました。



騒音の低減

2008年12月に発売された除雪作業を簡単な操作で行える小型・軽量タイプのブレード除雪機「ユキオスSB800」は、優れた燃費性能を実現した上で、騒音も低減しています。スロットルレバーから手を放すとエンジン回転数が自動的に下がるため、アイドリング時の低燃費を実現するとともに騒音を低減しました。さらにエンジンを樹脂カバーで覆うことにより騒音を低減し、早朝の作業にも配慮しています。

また、2009年3月に発売された家庭用カセットガス燃料で扱うガスパワー耕うん機「ピアンタFV200」も「ユキオスSB800」同様にスロットルレバーから手を放すとエンジン回転数が自動的に下がることで騒音を低減し、さらに大型サイレントマフラーの標準装備とエンジン部を覆う樹脂カバーをすることによって騒音を低減しています。



その他の取り組み

代替エネルギー

太陽電池の製造・販売を本格化

ホンダエンジニアリング(株)では、非シリコン系の薄膜太陽電池で、銅・インジウム・ガリウム・セレンの化合物を材料とするCIGS太陽電池の開発を行い、2007年10月より(株)ホンダソルテックにて量産を開始しました。このCIGS太陽電池は、発電層の厚さが多結晶シリコンと比べ約80分の1の $2.4\mu\text{m}$ で、プロセス工数が少ないことから、製造時に必要なエネルギーが小さく、発電による製造エネルギー回収期間が多結晶シリコンに比べて約3分の2となる0.9年と短い年数を達成しました。

CIGS太陽電池の開発において最も大きな課題は発電層の面内均質性です。多結晶シリコンの場合はセルサイズ最大15cm角程度なのに対し、Hondaでは $73\times 92\text{cm}$ 角の基板を可能にしています。これは、 500°C を超える高温処理時の面内温度分布対策や、自動車の塗装技術を応用したドーピング技術など独自の技術を駆使した結果で、薄膜系太陽電池でトップレベルの効率11.15%を達成しています。



熊本製作所への設置例

日本国内での取り組み

購買領域

使用済み金型のリサイクル促進

部品など製造に使われる鉄製の金型は、役目を終えた後、リサイクルしていますが、一つの金型から多数の補修部品を製造するため、廃棄の時期の決定が困難でした。そこで2002年度から、お取引先に対して部品情報や金型の廃棄可否判断基準を提示し、これらの情報にもとづき、廃棄作業を標準化することで、金型リサイクルを積極的に推進しています。

2007年度の実績

- リサイクル金型数：10,119型
- 重量換算 概算：1,410トン

2008年度の実績

- リサイクル金型数：9,760型
- 重量換算 概算：1,360トン

輸送領域

ノックダウン (KD) 部品の梱包における取り組み

二輪完成車輸出入と汎用製品の輸送

中国からのスクーター輸入では、引き続きリターナブル・パレットを使用し、物流廃棄物ゼロの運用を継続しています。一方、輸向け包装資材については、欧州地域を中心にダンボールレス化や、リターナブル・スチールケースの適用機種種の拡大を進めることにより、使用量の削減を継続しています。

汎用製品である中大型船外機の国内輸送包装は、リターナブル・スチールケースを使用することで、スチール材とダンボール材の使用量削減に継続して取り組んでいます。

二輪完成車輸出入における資材の削減量

項目	削減量
スチール材の使用量削減	482トン
ダンボール材の使用量削減	750トン

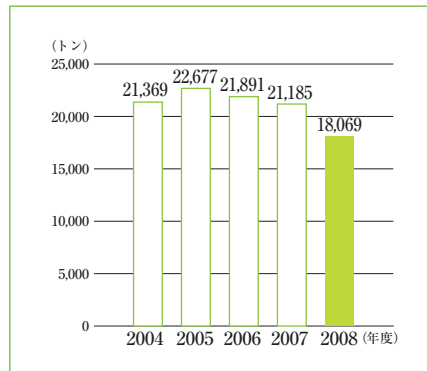
汎用製品輸送における資材の削減量

項目	削減量
スチール材の使用量削減	71トン
ダンボール材の使用量削減	0トン

補修部品の梱包における取り組み

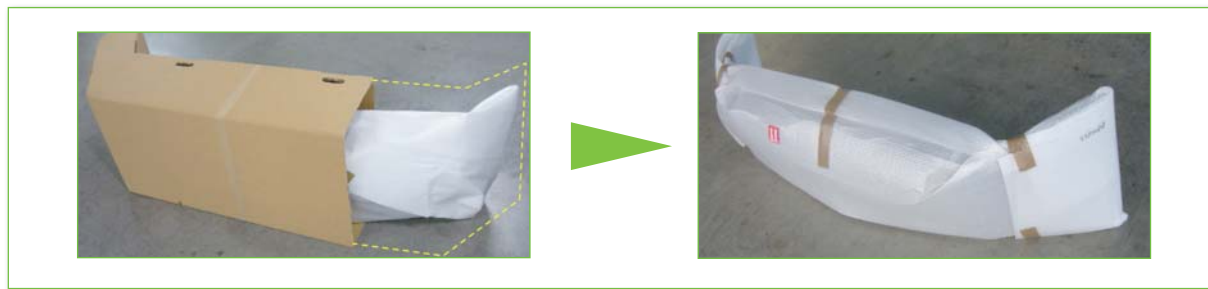
2008年度の包装資材使用量は18,069トンと2007年度に比べて、約15%減となる3,116トン削減することができました。2007年同様、チャーター便に合わせて導入した輸送用「リターナブル容器」の使用による「包装簡素化」が大きく貢献しました。小物部品を中心に従来からの輸送（搬入・出荷）用はもとより、庫内オペレーションおよび保管用としても使用している「段ボール箱」の使用量を減らすために導入した「庫内リターナブル容器」の適用拡大も徐々に効果を上げており、さらなる拡大に向けて進めていきます。一方、大物部品は、補修部品としてニーズの高いバンパーに着目し、従来の外装箱である段ボール材を使用しない、バンパー専用の簡易なエコ包装へ切り換え、梱包資材の使用量削減を図ることができました。

補修部品の包装資材使用量推移



※2008年度の数値を修正しました。

事例紹介：補修用バンパーの包装簡素化



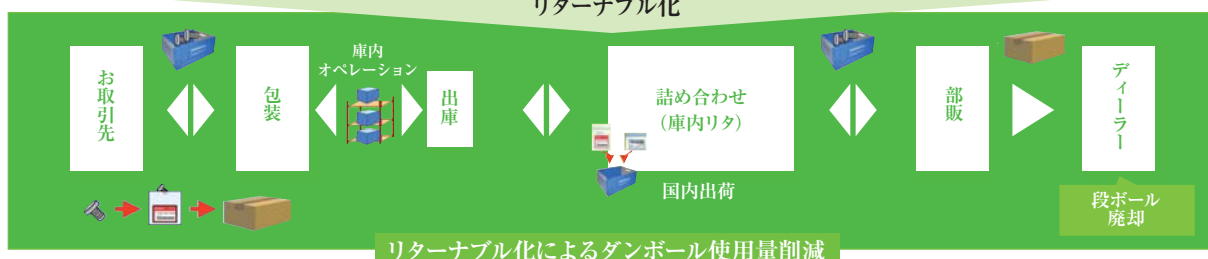
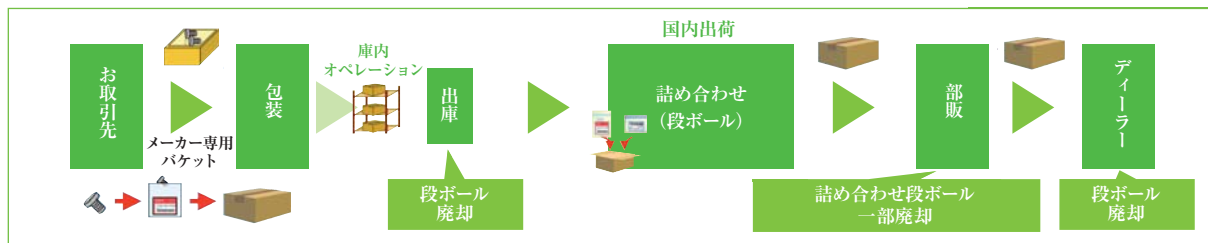
旧仕様 段ボール箱（外装）+発泡シート（内装）

新仕様 バブル発泡シート組み包装

庫内集約箱のリターナブル化



リターナブル容器



日本国内での取り組み

製品の資源循環・3R領域

開発段階での取り組み

環境負荷物質の削減

四輪車の取り組み

Hondaは、環境に悪影響を及ぼすとされる重金属4物質(鉛、水銀、六価クロム、カドミウム)を削減する取り組みを進めてきました。2008年度は、新型インサイトなどすべての新型車に加えて、マイナーモデルチェンジの機種でも(社)日本自動車工業会が定める削減目標※を達成しました。代替フロン(HFC134a)の削減については、代替フロン使用量を1995年度比で10%以上削減したエアコンの適用を拡大し、2008年度は、24機種中22機種となりました。代替

フロンを使用しないエアコンについては、実車搭載に向けた実用化を検討中で、引き続き、業界の動向や技術レベルの情報収集を進めています。さらに、2008年度に発売したすべての新型車において、インテリアやエクステリアにPVC(ポリ塩化ビニル)を含まない部材を適用することで、ASR(Automobile Shredder Residue、使用済自動車の処理・リサイクル後に発生する自動車由来のシュレッダーダスト)中の塩素濃度を1%以下のレベルに低減しています。

※(社)日本自動車工業会自主削減目標(新型車より)

削減物質	目標(実施)時期	削減内容
鉛	2006年1月以降	1996年比1台当たりの使用量 【四輪】10分の1以下 【二輪】60g以下
水銀	2005年1月以降	一部(ディスチャージヘッドライトやナビゲーションの液晶パネル等に極微量に含有)を除き使用禁止
六価クロム	2008年1月以降	使用禁止
カドミウム	2007年1月以降	使用禁止

二輪車の取り組み

2005年12月末までに重金属4物質(鉛、水銀、六価クロム、カドミウム)を国内全生産モデルで削減する取り組みを進めてきました。2006年度末に達成し、2008年度生産車についても、引き続き自主目標を達成しています。さらに、2010年から欧州でタイヤへの使用が禁止される多環芳香族炭化水素の削減を国内で完了しました。

汎用製品の取り組み

2006年12月末を目標に、重金属4物質(鉛、水銀、六価クロム、カドミウム)を国内生産の全モデルで削減する取り組みを進めてきました。汎用製品については、特に国内規制はありませんが、Hondaは(社)日本自動車工業会の自主削減目標に準じた取り組みの結果、鉛、水銀、カドミウムの3物質については、国内生産の全モデルですでに目標を達成しています。船外機の一部防錆処理剤などに含まれていた六価クロムも2008年3月に代替を完了しました。

使用段階での取り組み

オイルフィルター・リサイクル

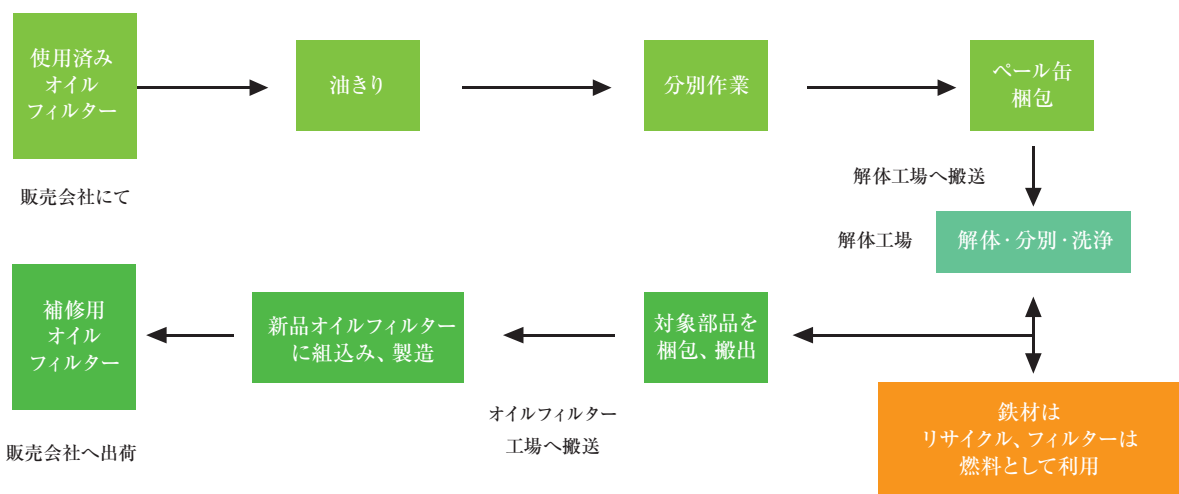
2004年1月から使用済みオイルフィルターを回収・解体し、金属や燃料として再資源化するだけでなく、構成部品の一部については補修用量産部品として再利用し、回収品の100%リサイクルを継続しています。

全国のHonda販売会社ルートでの回収に加え、2005年度からは一般整備工場などからの回収も開始しています。前年度販売量の30%回収を目標に推進していきます。

分解されリサイクルされる使用済みオイルフィルター



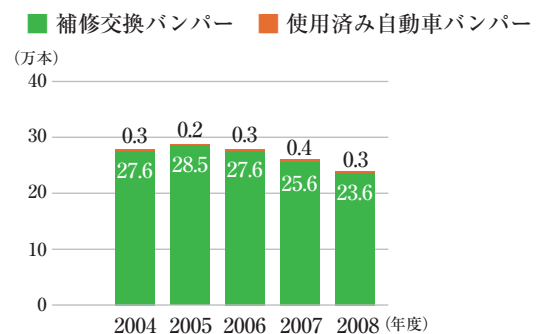
オイルフィルター・リサイクルフロー



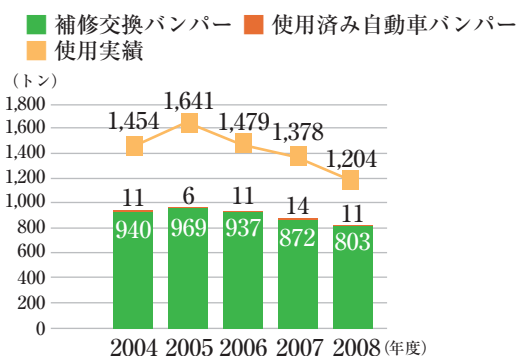
バンパーの回収とリサイクル

ディーラーからのバンパー回収リサイクルシステムを確立し、回収したバンパーを再生材としての再利用も継続しています。2008年度はHondaの系列四輪販売会社および一般整備工場において、修理交換後の廃バンパーを23.9万本、樹脂量にして814トン回収しました。その内訳は補修交換バンパー23.6万本/803トン、使用済み自動車バンパーが0.3万本/11トンでした。また、廃バンパーを再資源化した再生樹脂の使用実績は1204トンでした。バンパー再生樹脂の再利用先は、四輪車は補修用バンパー、スプラッシュシールド、スプラッシュガードに、二輪車はアンダーカバーなどです。

バンパー回収本数



バンパー回収量と使用実績



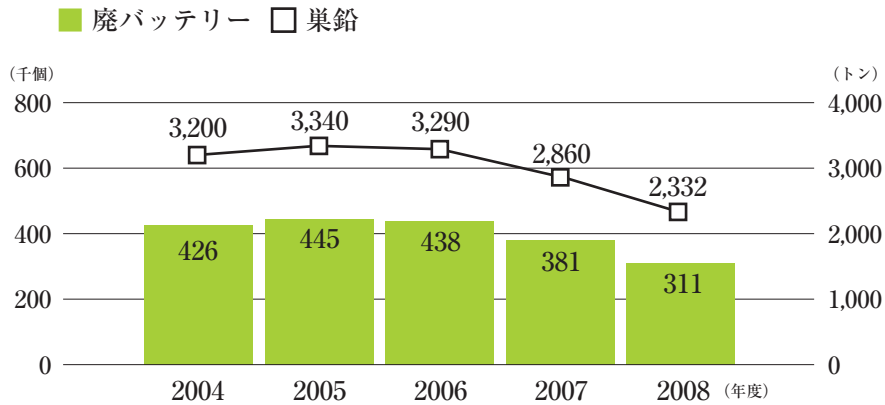
注1) 回収量より使用実績が多いのは、前述の廃バンパー以外に生産工程での不良品の回収や前年からの在庫分が入っているためです。

注2) バンパー回収量については、2003年度からバンパー1本当たりの重量を3.4kgとして換算しています。

廃バッテリーの回収システム

1997年度からHonda四輪販売会社では、バッテリー販売時にお客様から下取った廃バッテリーを全国70拠点のHonda部品販売会社に集約し、連携回収事業者と協力して自主回収を展開しています。

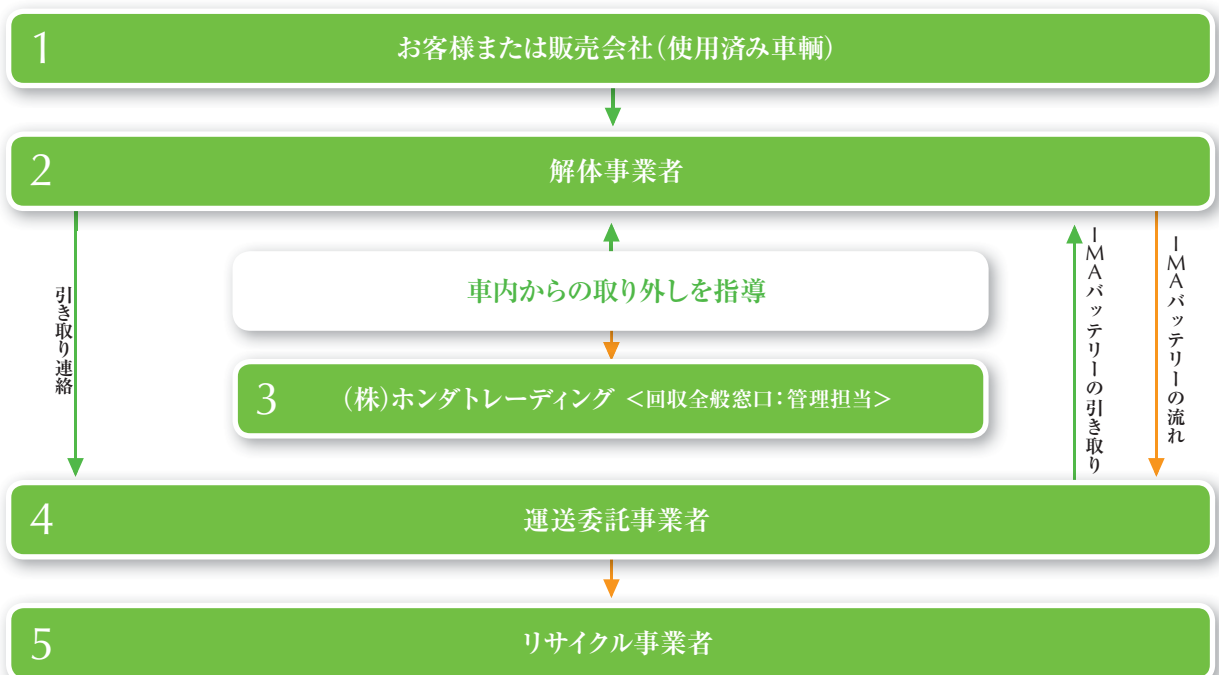
廃バッテリー回収個数と巢鉛回収量



ハイブリッド車のバッテリー自主回収システム

Hondaのハイブリッド車に搭載の「IMA(インテグレートド・モーター・アシスト)バッテリー」は、リサイクル可能なNiMH(ニッケル水素)電池を使用しています。Hondaでは「IMAバッテリー」を独自の自主回収システムにより、全数適正に処理しています。回収された「IMAバッテリー」には、希少金属も使用されており、ステンレス鋼や電池材料などに再生し、有効活用されます。1999年より開始されたこの取り組みにより、2008年度は713台分の「IMAバッテリー」を回収しました。

ハイブリッド車用IMAバッテリー回収の流れ

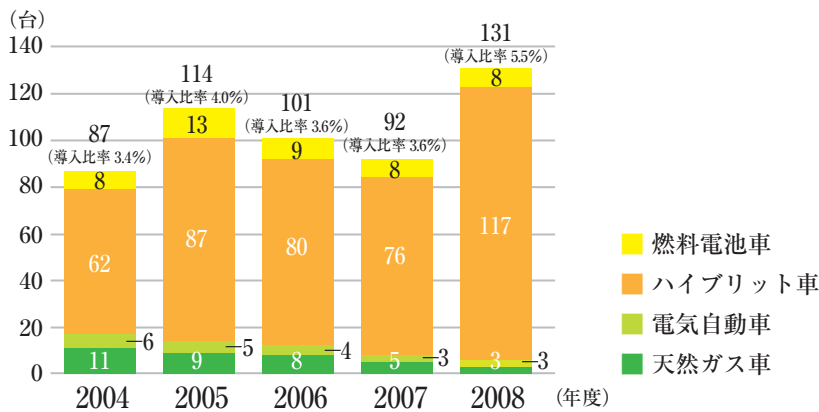


日本国内での取り組み

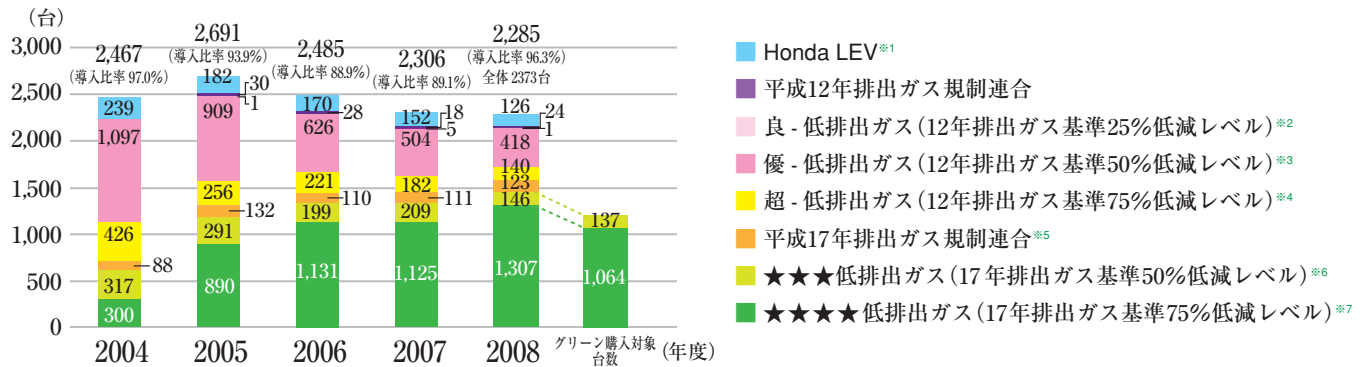
オフィス領域

主要事業所における社有車への低公害車/低排気ガス自動車の導入状況

政府指定低公害車の導入台数



低排出ガス自動車・低燃費自動車の導入台数(ガソリン車・ハイブリッド車・天然ガス車)



注) 導入比率は全社有車数を2007年度2,588台、2008年度は2,373台として算出

- ※1 126台のうち105台が22年規制達成、2台が+5%達成
- ※2 24台のうち1台が22年規制達成
- ※3 418台のうち327台が22年規制達成、8台が+5%、3台が+10%、1台が+20%達成
- ※4 140台のうち110台が22年規制達成、8台が+5%、5台が+10%、1台が+15%、1台が+20%達成
- ※5 123台のうち16台が22年規制達成、25台が+5%、5台が+10%達成
- ※6 146台のうち63台が22年規制達成、70台が+5%、4台が+10%達成
- ※7 1,307台のうち2台が22年規制達成、644台が+5%、285台が+10%、1台が+15%、70台が+20%、117台が+25%達成

関連情報

社会活動領域

ビーチクリーン活動

Hondaは社会活動の一環として、独自開発した「牽引式ビーチクリーナー」を使用した、ビーチクリーン活動を実施しています。この活動はHondaグループの従業員とOBのボランティアで構成されたビーチクリーンキャラバン隊と、地域の自治体とが協働で行っています。使用するクリーナーは、熊手とフルイを応用したシンプルな構造で、砂の表面を跳ね上げることで、砂地に入り込んだゴミの回収も可能となり、効率の高いクリーン活動を可能にしています。軽量コンパクトな設計のため、生態系にもやさしいシステムとなっています。



2008年度は、全国32カ所で実施し、のべ1,600人以上の従業員やOBなどが参加し、約6,000袋のゴミを回収しました。2009年度から、地域の販売会社の従業員も参加して活動を広げていきます。

ハローウッズ

Hondaは、栃木県茂木町に、森の自然体験ミュージアム「ハローウッズ」を展開し、“元気な子どもたちへの元気な森＝遊びと学びの場づくり”をテーマに活動しています。次世代を担う子どもたちを中心に、身近な自然である里山を教材・教室として、思いっきり遊び、自然の不思議さや英知に気づくこと、そして地球のために何をなすべきかを、一人ひとりが考えるきっかけの場としています。

ハローウッズは、落葉広葉樹が広がる広大な八溝山塊の森にあります。この森に生きる植物、虫、動物の観察や森での遊びを通して自然に興味を持ち、その中で子どもたちがさまざまな発見をし、体験を重ねてもらうことを目的としています。この遊びと学びのサポート役として、キャスト(森の語り部)が常駐しています。

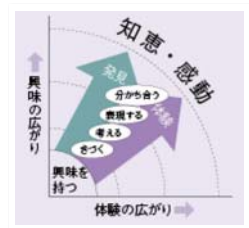
来場者数(概数)の推移項目

2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
77,000名	86,000名	100,000名	112,000名

【URL】<http://www.honda.co.jp/hellowoods/>

ファンファンラボ

「ツインリンクもてぎ」で展開している「FAN FUN LAB」(ファンファンラボ)では、環境に対するHondaの取り組みを体験型展示・パネル・映像で紹介しています。未来を担う子どもたちが環境についての正しい知識を学び、一人ひとりのできることへの理解を深める場の提供をめざし運営しています。学校団体向けのプログラム「新エネルギー教室」ではHonda FCX(水素燃料電池車)を用いた学習活動を行っています。このクルマの仕組みをわかりやすく解説し、地球温暖化の問題や次世代エネルギーの必要性を伝えていきます。2008年度の新エネルギー教室受講者数は1,151名でした。



【URL】<http://www.honda.co.jp/fanfunlab/>

●環境イベントへの協力(各省市・自治体、法人などの主催するイベントなどへの積極的な参加)

「低公害車フェアなどへの協力・支援実績」は「データ・事例集」P.75をご覧ください。

●Honda事業所での環境展の開催

「地域との共生活動実績」は「データ・事例集」P.76をご覧ください。

「環境関連受賞」は「データ・事例集」P.78をご覧ください。

【URL】 <http://www.honda.co.jp/environmental-report/>

企業広告

●商品広告/商品カタログ

「Honda CM INFORMATION」

【URL】<http://www.honda.co.jp/cmdata/>

Hondaグループの事例紹介

マイクログリッドで新エネルギーを最大限に活用

■(株)本田技術研究所 四輪R&Dセンター

本田技術研究所は「世界一環境負荷の少ない研究所」を目指し、温暖化ガス削減、有害化学物質の削減、資源の有効活用という3つの柱で先進的な環境取り組みを進めています。特に、世界的課題であるCO₂排出削減については、原単位で2010年に2000年度比15%削減という目標を掲げています。そのなかでも先進的な取り組みとして、四輪R&Dセンターが構築した新エネルギーを活用したマイクログリッドシステムについて紹介します。

マイクログリッド制御による設備の高効率運転

250万平方メートルという敷地に建つ本田技術研究所の四輪R&Dセンターは、ひとつの町ともいえる大きさです。ここでは、エンジンの耐久テストや走行テストが日夜繰り返され、24時間稼働させておく必要のある設備も存在しております。そんな条件下において、同センターでは「グリーン研究所の実現」のために、ひとりひとりができる活動から設備運用にわたる幅広い環境対策に取り組んでいます。なかでも、さらなるCO₂排出量の削減に向けて同センターが取り組んでいる先進的な施策が、新エネルギーを活用した「マイクログリッドシステム」です。



マイクログリッドとは、複数の分散型電源をネットワーク化し、それぞれの発電量を需要によって制御することで安定した電力を供給するシステムのことで、CO₂排出とエネルギーコストを削減する効果が期待できます。さらに、事業所全体の電力、熱の総合エネルギー効率を最大限に向上させるため、エネルギーの使用状況を把握する「LCA管理統合監視システム」により、事業所全体のエネルギーの集中管理および制御を行っています。

2008年には、既存の動力源、空調、電力系の運転監視システムとLAN接続でマイクログリッドを含む電力システムを連結し、ウェブを活用した統合監視システムとなりました。担当者がウェブ上で常に全体のエネルギー使用状況を確認できる「見える化」が可能となり、それぞれ最適エネルギー運用ができるようになりました。

世界最大級NAS電池で電力平準化



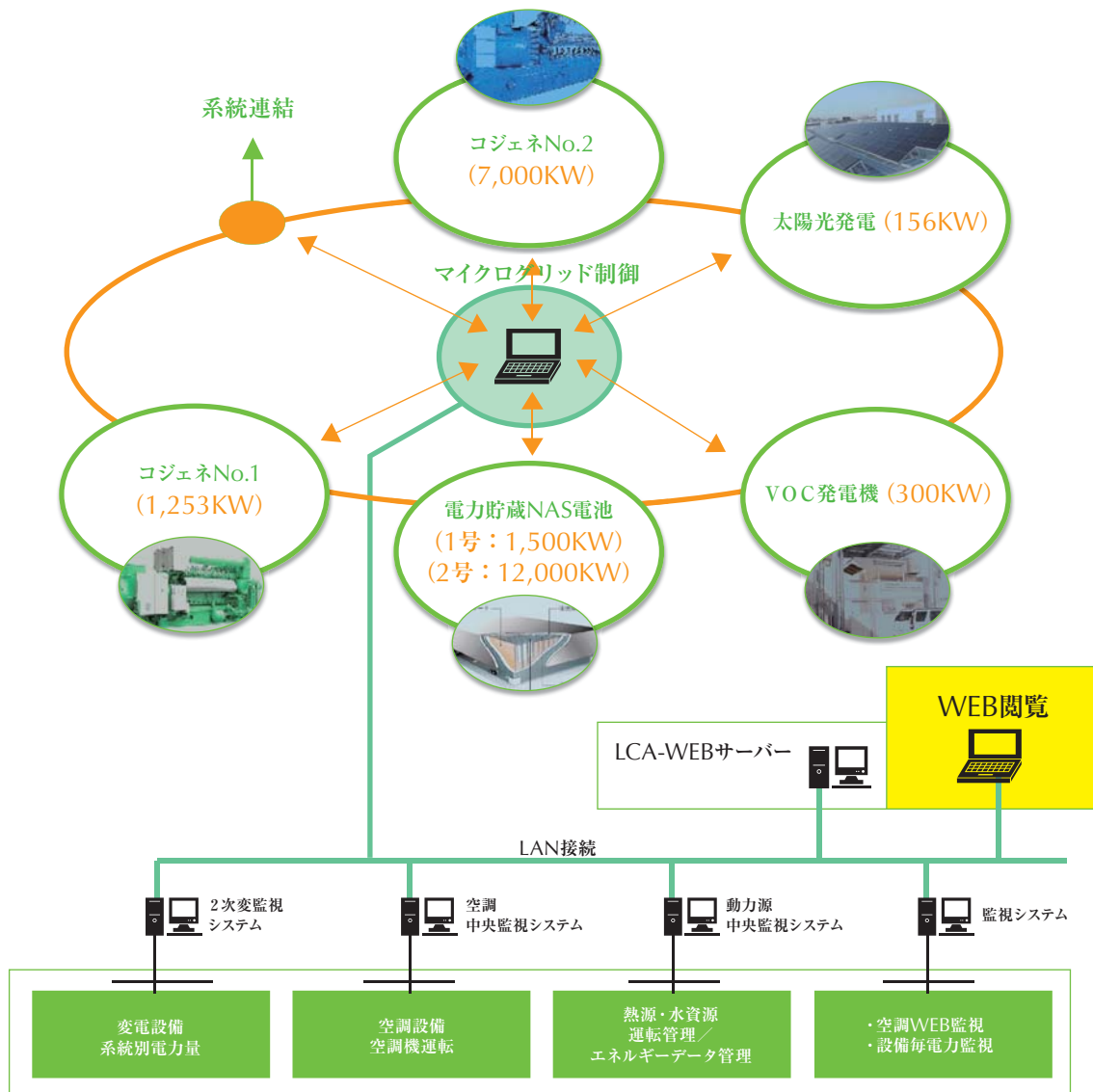
同センターのマイクログリッドシステムを構成しているのは、コージェネレーション2機、NAS電池2機、廃棄燃料を利用したVOC発電機の新エネルギーと、太陽光発電の自然エネルギーです。それらの中にも画期的な電源があり、とくに1,500kWのNAS電池1号に加え、2007年9月から稼働を開始したNAS電池2号は12,000kWと、2009年6月現在で世界最大級規模のものです。雷が多い地域のため、瞬間停電対策にも利用しています。

電力貯蔵用電池のなかでも充放電効率が高いNAS電池は、割安な時間帯に無駄なく電気を貯蔵できるため、電力の平準化に大きく貢献しています。夏場の電力ピーク時にも安定操業ができ、地域の電力供給に支障を与えないことで社会貢献にもなっています。太陽光発電など出力変動の大きい自然エネルギーと関係させて、電力を安定して供給できるのもNAS電池の特長です。

このほか、1,253kWのコージェネレーション1号に加え、2008年4月からは7,000kWあるガスエンジンによるコージェネレーション2号が稼働しています。さらに、テスト使用後の残燃料をVOC発電機の燃料としてリサイクルしています。太陽光発電も112kWから156kWに増強、それぞれマイクログリッドシステムによって、CO₂排出の少ない最適な電力供給を行っています。

電力会社から研究所に供給される年間電力量はおよそ一般家庭の約3~4万軒分に相当しており、これの約10%を新エネルギーでまかっています。マイクログリッドシステムを更に進化させ、エネルギーのベストミックスを目指して運用方法を確立していきます。

本田技術研究所 マイクログリッドシステムの概要



Hondaグループの事例紹介

水のフル循環システムを目指して

■ホンダエンジニアリング(株)

研究開発現場から発生する、日々に変化する廃水を処理しているにもかかわらず、芳賀町の厳しい水質基準に合わせ、高度な排水処理システムにチャレンジしてきたホンダエンジニアリング。特許を取るなど創意溢れる工夫や先進的なデバイスの導入によって、独自の排水処理利用システムを確立してきました。環境のトップランナーとして、水資源有効活用のための「放流ゼロ化」に向けて、2010年までに排水のフル循環システムの確立を目指しています。

日本一きれいな水を目指してフル循環

日本できれいな水が流れていることで知られているのは四万十川です。「これよりきれいな水を作ろう」というのが、1990年、栃木県に移転を始めたホンダエンジニアリングが排水処理設備を立案したときの想いです。四万十川を擁する四国同様、自然豊かな野元川周辺の芳賀町の方々が、排水の最終放流先で生活を営んでいます。栃木県は、農業用水の利用を想定しており、水質基準が全国でも極めて厳しいところです。さらに、ホンダエンジニアリングでは、生産技術の研究開発をしている特性上、多種多様な化学物質を含む常に変化する廃水が、毎日のように排出されます。このように求められていることに対応するため、1990年の設立当初から高度な排水処理システムを構築してきました。



1990年以降、埼玉県からの移転と事業規模の拡大にともない、水の使用量は徐々に増えていました。そこで、排水として放流するのではなく、再利用するという方針に転換したのです。厳しい水質基準に合わせて野元川に放流するより、さらにきれいにして事業所内で使った方がいいのではないかと、という発想からでした。ホンダエンジニアリングがグリーンファクトリーの取り組みを推進する中に、水資源の有効活用のため、2030年までに排水放流ゼロを達成するという目標があります。計画をさらに前倒しし、生活排水、工業廃水の更なる高度処理設備の追加と排水を再利用するという計画を見直し、2010年までに水のフル循環システムの確立に向けた取り組みに着手しました。

フル循環システムによる水の利用を進めた結果、2008年度には、年間61,500m³の上水購入量に対し、排水再利用量を、目標値を上回る年量56,216m³にできました。工業用水の購入費と放流による処理費の削減等により、設備投資は2年で回収できています。2009年2月に、工業用水の購入と生活排水の放流停止を実施したため、2009年度にはさらなるコストダウンを見込んでいます。

工業系の廃水処理に膜を利用

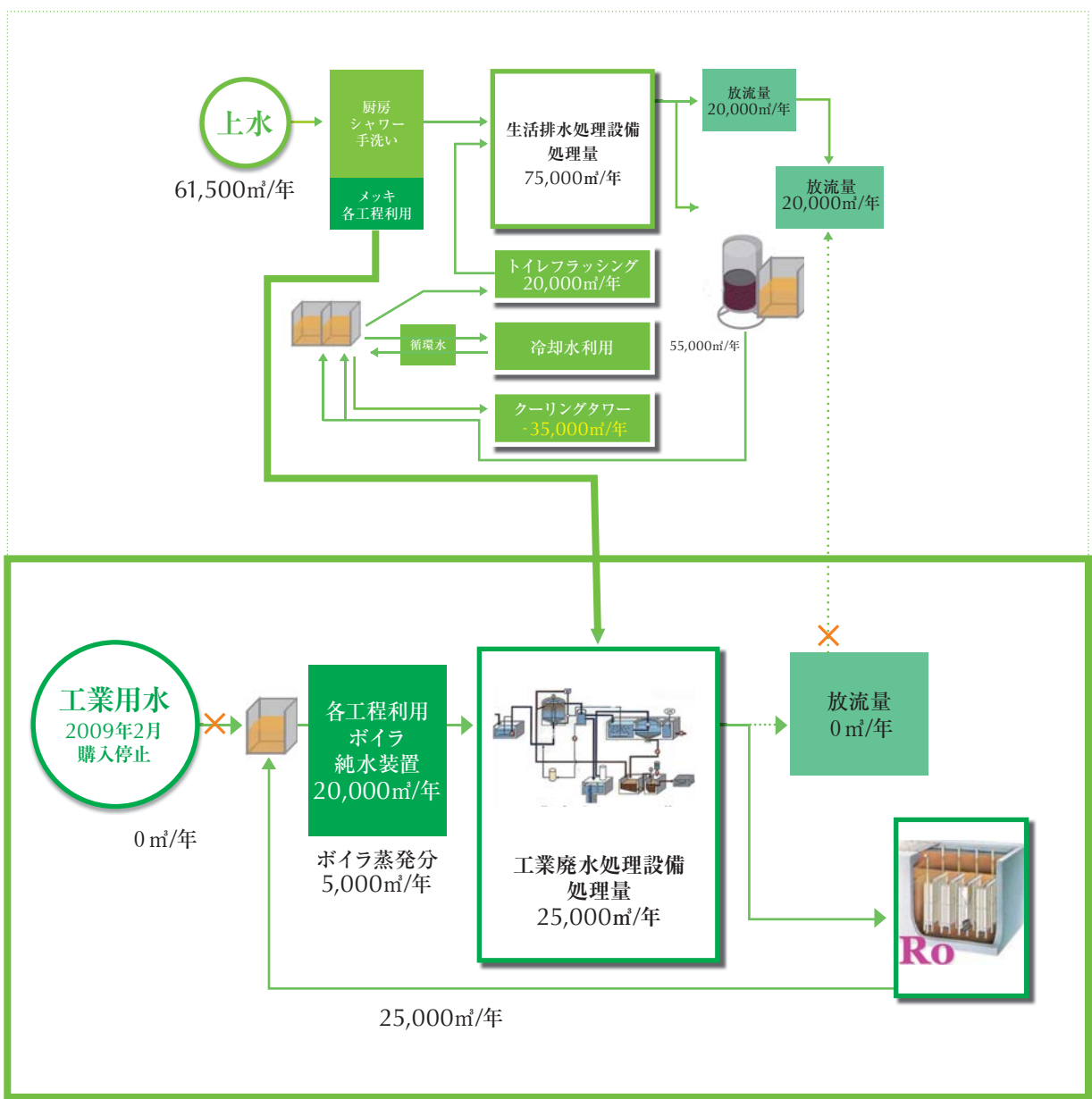


ホンダエンジニアリングでは、生活排水処理システムにおいて、物理化学処理法でなく、3000種類もいるバクテリア(微生物)を生かした生物処理法を採用しました。排水処理と汚泥処理の技術に関する特許を10数件取得しており、独自の技術によって運転しています。水処理に必要なバクテリアの働きを、酸素と栄養剤で微妙なバランスで制御しているのです。処理しなければならない水質に合わせて働いてもらうバクテリアを選びコントロールするために、テストをして運転条件を設定します。長年のテストデータを生かした工程です。1990年に建設した、第一工業廃水処理設備は地下に2槽設置し、1日に140m³の処理能力を持たせました。採用した鉄接触材処理を導入した当時

は、まだ日本に3台目のシステムという民間企業の中では早い段階での試みでした。2004年には420m³の処理ができる第二生活排水処理設備を建設し、UF(限外ろ過膜)という分離工程を追加した処理をしています。UFできれいにした水を、さらに活性炭を使って浄化することにより、製造設備の冷却水などの工業用水として再利用しようとしたことが、最初の取り組みでした。

工業系廃水処理設備は、日々変化する研究開発現場からの廃水を処理できる仕様になっています。1997年に竣工した第一工業廃水処理設備は、ツール用のメッキ廃水をターゲットにしました。入れ換えができる微細な繊維からなる生物担体ファビオスを採用したのです。2005年に作った第二工業廃水処理設備は、工業廃水処理設備として、民間企業では早い段階の「膜」による処理を採用しました。当初、重金属イオンが入っている廃水は、膜では対応できないといわれましたが、検討の結果、反応処理をすることと事前に脱窒素、硝化を行うことで、UF膜分離を選択できました。これは、通常後半に行う工程を前処理にもっていくという特徴的なシステムです。工業系廃水処理設備も日量160m³の処理能力を持っています。現在、工業用水として再利用するために、この工程で処理したきれいな水を、さらに、微粒子やイオン物質を通過させないRO(逆浸透膜)を使って塩分を含まない淡水にし、飲料水の水質レベルにまでして、冷却水やトイレフラッシングとして供給しています。

排水処理施設の概要



グリーンファクトリーで実施されている環境施策例

■ 本田技研工業(株) 栃木製作所

Hondaは「グリーンファクトリー計画」への取り組みとして、ものづくりの体制の進化と合わせ、環境面においても日本で熟成させた技術を世界に広げていくことを目標に生産改革に取り組んでいます。2009年3月に栃木製作所に増設された新工場は、太陽光発電や屋上緑化断熱、廃熱の有効活用や地下水熱の利用など、さまざまな環境施策を実施するグリーンファクトリーの例のひとつとなっています。

太陽光発電と緑化断熱ブロックを設置

栃木製作所は、主に四輪車用のエンジン部品や部品の駆動系商品を作っている生産拠点です。ここに2009年3月20日、駆動系部品の研究開発と生産の新工場(L10工場)が完成、1階の工場と2階の事務所・会議室と試験研究設備を合わせて約1万平方メートルが増設されました。「これまでにない環境にやさしい次世代型工場を作る」というコンセプトのもと、「人に優しい、地域に優しい、地球に優しい」をキーワードに設計されたこの新工場棟は、グリーンファクトリーのひとつとして、さまざまな環境施策が反映されています。

まず、Honda独自開発の12kWの太陽光発電システムが、工場エリアの2階架台に設置されました。これは栃木製作所では2基目となる太陽光発電で、2階にある事務所と会議室の照明電力に活用されています。太陽光発電による電力量は、日射強度などと合わせてリアルタイムでモニターで確認することができます。さらに、屋上の2カ所、約400平方メートルにわたって、シラス土壌にイワダレソウ(岩垂草)を植えた緑化断熱ブロックを設置し、屋上の緑化と断熱効果を図っています。



太陽光パネル



屋上緑化

空調や照明も環境配慮

新工場では、地下水熱や生産設備からの廃熱も空調熱源に有効活用しています。年間を通じて温度が一定の地下水を利用した地下水熱交換システムを構築し、また鍛造プレス機からの冷却水廃熱を空調機と組み合わせて暖房に利用するハイブリッド方式で、工場内の空調エネルギーの削減を行っています。

さらに、照明の高効率化にも取り組みました。事務所内の照明には、屋根から太陽光を採光する装置を採用し、プリズム反射するチューブの中を通して室内に柔らかい自然光を取り入れています。会議室には白熱電球や蛍光灯に比べて省エネで長寿命なLED照明を採用しました。水についても、工場廃水を処理後再び工場内のトイレの洗浄に再利用するなど、“環境配慮”のさまざまな工夫が工場内に詰め込まれています。

省エネ・省資源、高効率型の工場なのはもちろん、目に優しい屋上緑化の緑、自然光を取り入れた事務所、物流動線への配慮など、従業員が働きやすい環境も作り出しています。製作所の特性を活かした最新技術による環境施策が反映されているこの工場は、Hondaのグリーンファクトリーとして、そのイメージアップに貢献しています。

栃木製作所新工場 (L10工場) のグリーンファクトリー施策

太陽光発電システム
12KW



地下水熱活用型
給気冷却システム



工場内 高性能
ミストフィルター



事務所太陽光活用
明かりとり



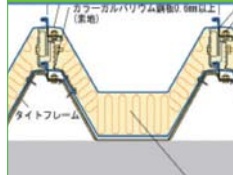
トイレ洗浄水
リサイクル水活用



鍛造廃熱利用型
ハイブリッド空調



工場 屋根/壁
断熱仕様採用



屋上緑化 400㎡
(イワダレ草)



高効率照明
(一部LED調光)



Hondaグループの事例紹介

太陽光発電システムの導入後の工夫で効率が15%アップ

■ 都筑製作所

Hondaの関連会社として、ミッション部品など四輪車や二輪車の重要な機能部品を製作している都筑製作所。1999年にISO14001の認証を取得するなど、地球環境の保全に積極的に寄与し、継続的に改善を進めています。2006年11月には発電時にCO₂を排出しないクリーンなエネルギー源として太陽光発電を導入しました。しかし、都筑製作所は単に導入するにとどまらず、太陽光発電の最大の効果を出すための独自の工夫を凝らしてきたのです。

2006年に設置した太陽発電のさらなる改善へ

都筑製作所の本社・工場は、長野県上田駅から車で約30分、千曲川が流れる埴科郡坂城町の山あいには位置しています。県内に3つの工場を持つ同社は、主にHondaの四輪車のフロントサスペンションやロアアーム、ダンパーフォークなどの足回りやステータシャフトなどのミッション部品、二輪車のギヤシフトスピンドルなどの部品を製造しています。

都筑製作所がインサイトのローターシャフトなどを製造する第3工場の屋根の上に太陽光発電を導入したのは、2006年11月のことです。2010年までに2000年比でCO₂排出量原単位16.7%低減を目標に掲げる同社は、環境施策のひとつとして太陽光発電システムに注目しました。2006年はHondaが自動車メーカーとして初めて太陽電池事業に参入するなど太陽光発電が注目されていました。さらに“地域に愛される企業”を目指す都筑製作所にとって太陽光発電は環境保全に貢献できる理想的なエネルギーシステムでした。2006年11月に40kWの太陽光発電システムを設置したものの、冬期には雪がパネルにかぶってしまい、発電がない状態が発生しました。比較・分析したところ、降雪・積雪の影響、山に囲まれた立地による日射量の少なさのほか、使用しているパネルが低温域ではシステム効率がよいものの、30℃以上で効率が下がる特性が判明。そこで、これらを改善して、発電を効率化するための取り組みが始まりました。



裏の果樹園が発想のヒントに

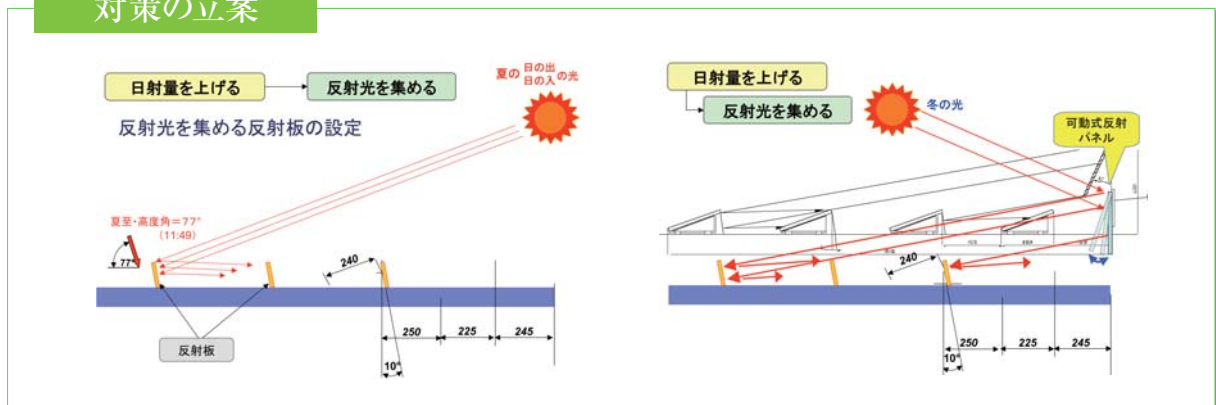
太陽光発電の効率を上げるためには光を集めないといけません。そこでヒントになったのが、製作所裏にあるリンゴの果樹園に敷かれていた反射シートでした。坂城町は果物栽培が盛んなため、太陽の反射光を利用して果物の実の色付きをよくするために敷かれた銀色のシートはどこにでも見られるものでした。これをパネルへの反射に活用することにしたのです。取り付け角度などの基本設計後、2007年の8月に、屋根の上にフレームを設置し、4列ある太陽光パネルの裏となる側面に遮光シートを取り付けました。さらに、春分、夏至、秋分、冬至など季節に応じて変わる反射角度に対応できるよう、壁に可動式の反射パネルを追加。壁に当たる光がシートを反射して、太陽光パネルに当たるよう二重反射で光を集めることにしました。これら反射シート設置後、システム効率が12%も上昇。可動式の反射パネルを設置した壁側の窓の曇りガラスを素通しガラスと遮光フィルムに換え、光を最大限に取り入れる工夫もしました。



同時に、パネルの温度が上がるとシステム効率が下がる特性への対応として、冷却パイプを設置しました。ホースを太陽光パネル全体に行き渡らせ、穴を開けた噴出口から水が放出できるよう、ホースの設置を手作業で進めました。また、この冷却パイプは、降雪時に水を流して雪を溶かす役割も担っています。年間平均9.6日の降雪がある坂城町では、一度パネルに雪が積もるとなかなか融けないため、晴れても発電ができなくなってしまいます。そこで、夏は30℃以上、冬は雪が降ると冷却パイプを通し上水を流すようにしました。この結果、12時から14時の一番暑い時間帯の発電量が冷却前より3.8%上昇させることができました。さらに、冷却自体の効率をあげるために、パネル上を筋になって流れてしまう水を、曇り止めや界面活性剤などの洗剤を塗ることでまんべんなく流れる工夫も試してみました。



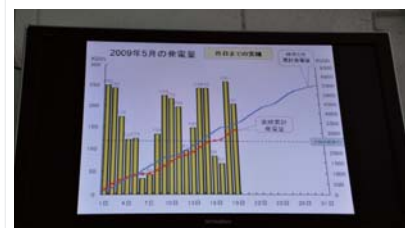
対策の立案



ISO14001に基づいた環境活動が産み出した工夫

最終的に、これらの施策により、2006年12月から2007年11月の間で、規格発電量に対して34%増となる発電量が得られ、年間約22CO₂トンが削減できました。施策開始から2年目となる2008年は、システム効率分布が前年比で最大20%向上。太陽光発電を導入する同地域他社との比較でも、1番効率の下がる6~10月に都筑製作所は日射量と発電量が低かったものの、システム効率が他社0.9%減に対し、9%増となりました。冷却効果で1.6%、反射光の効果12%、反射ガラス効果で1.4%の効率向上と、合計で発電効率が15%向上しました。太陽光パネル自体の性能を向上するには、莫大な開発投資が必要ですが、設置後の創意工夫によって効率を上げられることを証明したのです。

屋根に設置されたパネルの発電状況が製作所内のモニターで見られるなど、目に見えてわかりやすいこのシステム効率向上の施策は、社内の関心を高めることにもつながりました。都筑製作所では、ISO14001に基づいた環境活動を基本に、省エネ・省資源など部署ごとに環境テーマを挙げ、全員参加の活動をしています。高い目標を持ち、取り巻く環境を生かしながらその保全に取り組む日々の姿勢が新しい工夫への発想をもたらし、シンプルに実践したことで実績に結びつけた好例といえます。



Hondaグループ 四輪販売店の事例紹介

「チーム・マイナス6%」への参加による環境負荷削減

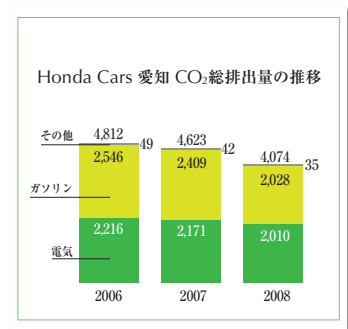
■Honda Cars 愛知

販売店での環境負荷削減は、電気やガソリン使用量の削減など、スタッフの地道な活動が重要となります。Honda Cars愛知では、この環境負荷削減への取り組みを全従業員に意思付けすることを狙いとし、2006年より環境省が推奨している「チーム・マイナス6%」に販売会社法人として登録し、全従業員が一丸となってCO₂削減に向けた活動を展開しています。

全従業員が参加、「1日1人1Kg」のCO₂削減

従業員個々の継続した活動が必要となる環境負荷削減の活動を定着させるために、法人として「チーム・マイナス6%」に登録した後に、全従業員も個人登録し「1日1人1Kg」のCO₂削減を目指した活動を展開しています。

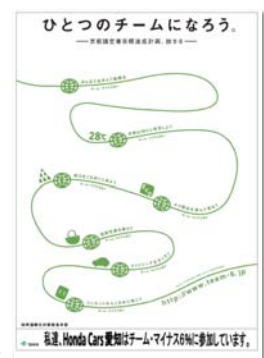
この取り組みにより、電気・ガソリン・灯油・都市ガス・プロパンガスのすべてにおいて2年連続で使用量が減少し、CO₂削減の成果につながっています。また、この活動をお客様に広く知っていただくために、「チーム・マイナス6%」参加法人だけが使用できる環境省提供のポスターに社名を入れ、各拠点のショールームに掲示しました。また、従業員の名刺にも同様のロゴを取り入れ、環境保全への理解活動を積極的に展開してきています。



クールビズ・ウォームビズの導入

販売店のショールームでのクールビズ・ウォームビズは、お客様との商談や、サービスの待ち時間などで空調をエコモードで運転することに加え、更には営業・フロント事務スタッフのノーネクタイ実施は、販売の店頭環境としては受け入れが難しい取り組みとされてきましたが、Honda Cars愛知では、「チーム・マイナス6%」への参加を機会に、お客様に環境保全の重要性をPRすることで、クールビズ・ウォームビズの導入に対し、お客様からの環境保全に対する姿勢に対し評価をいただけるほどになり、今では、「難しい」とされていたことが「当たり前」になるまで浸透しています。

チーム・マイナス6%ポスター



エコドライブ講習会の実施

販売店での環境負荷削減活動は、自社の取り組みだけではありません。Honda販売店では、お客様への安全運転講習会の機会を捉え、エコドライブの講習会を実施し、お客様に、ガソリン使用量の節約を通じたCO₂削減を啓蒙しています。Honda Cars愛知では、2008年度は52店舗で年2回、延べ104回の安全運転講習会を開催し、その中で506名のお客様に「エコドライブのコツ」を活用した「エコドライブ教室」を開催、お客様と一緒にガソリンの節約を通じたCO₂削減を目指しています。



Hondaグループ 四輪販売店の事例紹介

(株) ホンダソルテック社製 太陽光発電システムを導入

■Honda Cars 水戸

Honda Cars水戸では、2008年10月に勝田西店と勝田北店を拠点統合し、新たに勝田北店をオープンしました。この新拠点は、Hondaの販売店として初めて太陽光発電システムを建屋屋上に設置しています。CO₂を排出しないクリーンなエネルギーを積極的に活用することで、お客様に地球温暖化防止に貢献する姿勢をアピールしています。

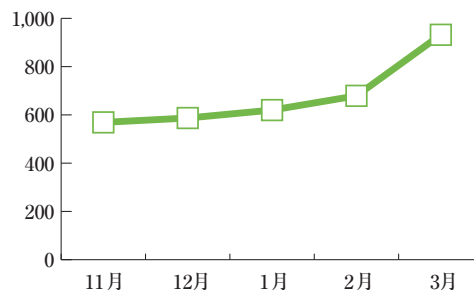
ホンダソルテック社製の太陽光発電でCO₂削減

2008年10月11日にリニューアルオープンした茨城県のHonda Cars水戸 勝田北店は、Hondaの販売拠点として初めてホンダソルテック社製の太陽光発電システムを導入しました。導入した太陽電池モジュールは(株)ホンダソルテック社が製造する9kWの薄膜化合物型太陽電池システムで、結晶系シリコン太陽電池より少ない原料で製造できるため、資源を有効活用することが可能です。

太陽光により発電した電力を、事務所やショールームの照明など、拠点で使用する電力の一部に活用しています。



2008年度 発電量(kWh)



ソーラーシステムでお客様に環境保全を啓蒙

ショールームにはソーラーパネルの仕組みや太陽電池で発電された電力量を確認できる液晶モニターパネルも設置しました。

Hondaの販売店として、化石燃料を使用しないクリーンなエネルギーである太陽光発電を積極的に利用し、環境への有効性を通じて、地球温暖化防止に貢献するHonda Cars水戸としての姿勢をアピールし、ご来店いただいたお客様にCO₂削減をはじめとした環境保全に対する理解活動の展開を強化していきます。



四輪車環境データ

フリード

車種名		フリード	
代表記載タイプ		G	
発売日		2008年5月29日	
型式		DBA-GB3	DBA-GB4
エンジン(原動機)型式		L15A	
エンジン総排気量(cm ³)		1,496	
駆動装置	駆動方式 ^{*1}	FF	4WD
	変速機	無段変速 オートマチック	電子制御 5速オートマチック
車両重量(kg) ^{*2}		1,280	1,370
排出ガス	平成17年排出ガス規制適合 ^{*3}	○	
	国土交通省「低排出ガス車認定制度」認定レベル ^{*4}	★★★★	
	CO	0.5	
	10・15+JC08Cモード NMHC	0.013	
	国土交通省届出値(g/km) NOx	0.013	
	PM	—	
燃料消費率	10・15モード燃費(km/L)	16.4	14.0
	CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	141.6	165.8
	平成22年度燃費基準値達成		
	平成22年度燃費基準値+5%達成		○
	平成22年度燃費基準値+10%達成		
	平成22年度燃費基準値+15%達成		
	平成22年度燃費基準値+20%達成		
	平成22年度燃費基準値+25%達成	○	
燃費計 ^{*5} 装着状況		○	
地方自治体指定低 公害車への指定状況	八都府市	○	○
京阪神七府県市		○	○
グリーン購入法適合機種		○	○
グリーン税制対象機種		○	—
騒音(国交省審査値)	近接dB(A)/原動機回転速度(rpm)	80/4,000	84/4,950
	加速dB(A)	71	73
	定常dB(A), 50km/h	69	69
エアコン	代替フロン134a:使用量(g)	420	
車室内VOC		自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)	
環境負荷物質削減	鉛 ^{*6}	自工会2006年目標達成(1996年使用の1/10)	
	水銀 ^{*7}	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)	
	六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)	
	カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)	
リサイクル	リサイクル可能率 ^{*8}	車全体で90%以上	
	樹脂、ゴム部品への材料表示	樹脂、ゴム部品に可能な限り全て	
	リサイクルし易い材料を使用した部品	アンダーコート、インナーウェザーストリップ、ウインドウモール、オープニングトリム、カウルトップガーニッシュ、グローブボックス、シフトノブ、センターコンソール、ダストシーラー、ツールバッグ、ドアモール、ドアライニング、バンパーフェース、ピラーガーニッシュ、マスタックシーラー、ルーフモールなどの内外装部品	
再生材を使用している部品	アンダーカバー、エアアウトレット、スプラッシュシールド、バッテリーボックス、吸音材		
環境負荷物質使用状況	鉛 ^{*6}	使用部品	電子基盤、電気部品のはんだ、圧電素子等(PZTセンサー)
	水銀 ^{*7}	使用部品	—
	六価クロム	使用部品	—
	カドミウム	使用部品	—

*1: 「FF」…前輪駆動車、「4WD」…四輪駆動車

*2: 車両重量は、3列シート7人乗り時を記載しています。

*3: 乗用車、軽量車における新長期排出ガス規制に対する適合

*4: 「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し50%低減レベル」認定車、「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し75%低減レベル」認定車

*5: 瞬時燃費計、平均燃費計、ECOランプなどのエコドライブ支援装置

*6: 鉛バッテリー(リサイクル回収ルートが確立されているため除外)、1996年乗用車の業界平均使用量は1850g(バッテリーを除く)

*7: ナビゲーションなどの液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージヘッドランプ、室内蛍光灯(交通安全上必須な部品の極微量使用を除外)

*8: (社)日本自動車工業会「新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン」による

注) 燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時には、この条件(気象、道路、車両、運転、整備などの状況)が異なってきますので、それに応じて燃料消費率が異なります。

※2008年度に発売された新型製品・フルモデルチェンジ製品のみを記載しております。一部、代表スペックのみを掲載しておりますので、全型式のさらなる詳細データは下記ウェブサイトをご覧ください。

 <http://www.honda.co.jp/auto-environment/>

車種名		フリード		
代表記載タイプ		Gエアロ		Giエアロ
発売日		2008年5月29日		
型式		DBA-GB3	DBA-GB4	DBA-GB3
エンジン(原動機)型式		L15A		
エンジン総排気量 (cm ³)		1,496		
駆動装置	駆動方式 ^{*1}	FF	4WD	FF
	変速機	無段変速 オートマチック	電子制御 5速オートマチック	無段変速 オートマチック
車両重量 (kg) ^{*2}		1,290	1,380	1,330
排出ガス	平成17年排出ガス規制適合 ^{*3}	○		
	国土交通省「低排出ガス車認定制度」認定レベル ^{*4}	★★★★		
	CO	0.5		
	10・15+JC08Cモード 国土交通省届出値 (g/km)	NMHC	0.013	
		NOx	0.013	
	PM	—		
燃料消費率	10・15モード燃費 (km/L)	16.4	14.0	16.4
	CO ₂ 排出量 (g/km)〈燃費からの換算値〉	141.6	165.8	141.6
	平成22年度燃費基準値達成			
	平成22年度燃費基準値+5%達成		○	
	平成22年度燃費基準値+10%達成			
	平成22年度燃費基準値+15%達成			
	平成22年度燃費基準値+20%達成			
	平成22年度燃費基準値+25%達成 燃費計 ^{*5} 装着状況	○		○
地方自治体指定低 公害車への指定状況	八都府市		○	
	京阪神七府県市		○	
グリーン購入法適合機種	○	—	○	
グリーン税制対象機種	○	—	○	
騒音(国交省審査値)	近接dB(A)/原動機回転速度 (rpm)	80/4,000	84/4,950	80/4,000
	加速dB(A)	71	73	71
	定常dB(A), 50km/h	69	69	69
エアコン	代替フロン134a : 使用量 (g)	420		
車室内VOC		自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)		
環境負荷物質削減	鉛 ^{*6}	自工会2006年目標達成(1996年使用の1/10)		
	水銀 ^{*7}	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)		
	六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)		
	カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)		
リサイクル	リサイクル可能率 ^{*8}	車全体で90%以上		
	樹脂、ゴム部品への材料表示	樹脂、ゴム部品に可能な限り全て		
	リサイクルし易い材料を使用した部品	アンダーコート、インナーウェザーストリップ、ウインドウモール、オープニング トリム、カウルトップガーニッシュ、グローブボックス、シフトノブ、センターコン ソール、ダストシーラー、ツールバッグ、ドアモール、ドアライニング、バンパー フェース、ピラーガーニッシュ、マスタックシーラー、ルーフモールなどの内外装 部品		
	再生材を使用している部品	アンダーカバー、エアアウトレット、スプラッシュシールド、バッテリーボックス、 吸音材		
環境負荷物質使用状況	鉛 ^{*6}	使用部品	電子基盤、電気部品のはんだ、圧電素子等(PZTセンサー)	
	水銀 ^{*7}	使用部品	—	
	六価クロム	使用部品	—	
	カドミウム	使用部品	—	

オデッセイ

車種名		オデッセイ					
代表記載タイプ		Li		L		M	
発売日		2008年10月16日					
型式		DBA-RB3	DBA-RB4	DBA-RB3	DBA-RB4	DBA-RB3	DBA-RB4
エンジン(原動機)型式		K24A					
エンジン総排気量(cm ³)		2,354					
駆動装置	駆動方式 ^{※1}	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD
	変速機	無段変速 オートマチック	電子制御5速 オートマチック	無段変速 オートマチック	電子制御5速 オートマチック	無段変速 オートマチック	電子制御5速 オートマチック
車両重量(kg)		1,630	1,690	1,620	1,680	1,600	1,660
排出ガス	平成17年排出ガス規制適合 ^{※2}	○					
	国土交通省「低排出ガス車認定制度」認定レベル ^{※3}	★★★★					
	CO	0.6					
	JC08H+JC08Cモード NMHC	0.013					
	国土交通省届出値(g/km) NOx	0.013					
	PM	—					
燃料消費率	10・15モード燃費(km/L)	13.2	11.6	13.2	11.6	13.2	11.6
	CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	175.9	200.1	175.9	200.1	175.9	200.1
	平成22年度燃費基準値達成						
	平成22年度燃費基準値+5%達成						
	平成22年度燃費基準値+10%達成		○		○		○
	平成22年度燃費基準値+15%達成						
	平成22年度燃費基準値+20%達成						
	平成22年度燃費基準値+25%達成	○		○		○	
	燃費計 ^{※4} 装着状況	○					
	JC08モード燃費(km/L)	12.4	10.6	12.4	10.6	12.4	10.6
CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	187.2	219.0	187.2	219.0	187.2	219.0	
地方自治体指定低 公害車への指定状況	八都府市	○					
	京阪神七府県市	○					
グリーン購入法適合機種		○					
グリーン税制対象機種		○	—	○	—	○	—
騒音(国交省審査値)	近接dB(A)/原動機回転速度(rpm)	79/4,000	82/4,500	79/4,000	82/4,500	79/4,000	82/4,500
	加速dB(A)	75	74	75	74	75	74
	定常dB(A), 50km/h	69	69	69	69	69	69
エアコン	代替フロン134a:使用量(g)	750					
車室内VOC		自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)					
環境負荷物質削減	鉛 ^{※5}	自工会2006年目標達成(1996年使用量の1/10)					
	水銀 ^{※6}	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)					
	六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)					
	カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)					
リサイクル	リサイクル可能率 ^{※7}	車全体で90%以上					
	樹脂、ゴム部品への材料表示	樹脂、ゴム部品に可能な限り全て					
	リサイクルし易い材料を使用した部品	アンダーコート、インナーウェザーストリップ、ウインドウモール、ウォッシュャーチューブ、オープニングトリム、カウルトップガーニッシュ、グローブボックス、サンルーフドレンホース、シート表皮、シフトノブ、ツールバッグ、ドアモール、ドアライニング、バンパーフェース、マスチックシーラー、ピラーガーニッシュ、ルーフモールなどの内外装部品					
	再生材を使用している部品	スブラッシュシールド、吸音材					
環境負荷物質使用状況	鉛 ^{※5}	使用部品	電子基盤、電気部品のはんだ、圧電素子等(PZTセンサー)				
	水銀 ^{※6}	使用部品	—				
	六価クロム	使用部品	—				
	カドミウム	使用部品	—				

※1: 「FF」…前輪駆動車、「4WD」…四輪駆動車

※2: 乗用車、軽量車における新長期排出ガス規制に対する適合

※3: 「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し50%低減レベル」認定車、「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し75%低減レベル」認定車

※4: 瞬時燃費計、平均燃費計、ECOランプなどのエコドライブ支援装置

※5: 鉛バッテリー(リサイクル回収ルートが確立されているため除外)、1996年乗用車の業界平均使用量は1850g(バッテリーを除く)

※6: ナビゲーションなどの液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージヘッドランプ、室内蛍光灯(交通安全上必須な部品の極微量使用を除外)

※7: (社)日本自動車工業会「新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン」による

注) 燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時には、この条件(気象、道路、車両、運転、整備などの状況)が異なってきますので、それに応じて燃料消費率が異なります。

車種名	オデッセイ			
代表記載タイプ	Absolte			
発売日	2008年10月16日			
型式	DBA-RB3	DBA-RB4		
エンジン(原動機)型式	K24A			
エンジン総排気量(cm ³)	2,354			
駆動装置	駆動方式 ^{※1}	FF / 4WD		
	変速機	電子制御5速オートマチック		
車両重量(kg)	1,630	1,690		
排出ガス	平成17年排出ガス規制適合 ^{※2}	○		
	国土交通省「低排出ガス車認定制度」認定レベル ^{※3}	★★★★		
	JC08H+JC08Cモード 国土交通省届出値(g/km)	CO	0.6	
		NMHC	0.013	
		NOx	0.013	
PM		—		
燃料消費率	10・15モード燃費(km/L)	11.4	11.2	
	CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	203.7	207.3	
	平成22年度燃費基準値達成			
	平成22年度燃費基準値+5%達成	○	○	
	平成22年度燃費基準値+10%達成			
	平成22年度燃費基準値+15%達成			
	平成22年度燃費基準値+20%達成			
	平成22年度燃費基準値+25%達成			
	燃費計 ^{※4} 装着状況	○		
JC08モード燃費(km/L)	11.0	10.6		
CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	211.1	219.0		
地方自治体指定低公害車への指定状況	八都県市	○		
	京阪神七府県市	○		
グリーン購入法適合機種		○		
グリーン税制対象機種		—		
騒音(国交省審査値)	近接dB(A)/原動機回転速度(rpm)	82/4,000	82/4,000	
	加速dB(A)	75	74	
	定常dB(A), 50km/h	70	70	
エアコン	代替フロン134a:使用量(g)	750		
車室内VOC	自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)			
環境負荷物質削減	鉛 ^{※5}	自工会2006年目標達成(1996年使用量の1/10)		
	水銀 ^{※6}	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)		
	六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)		
	カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)		
リサイクル	リサイクル可能率 ^{※7}	車全体で90%以上		
	樹脂、ゴム部品への材料表示	樹脂、ゴム部品に可能な限り全て		
	リサイクルし易い材料を使用した部品	アンダーコート、インナーウェザーストリップ、ウインドウモール、ウォッシュャーチューブ、オープニングトリム、カウルトップガーニッシュ、グローブボックス、サンルーフドレンホース、シート表皮、シフトノブ、ツールバッグ、ドアモール、ドアライニング、バンパーフェース、マスチックシーラー、ピラーガーニッシュ、ルーフモールなどの内外装部品		
	再生材を使用している部品	スブラッシュシールド、吸音材		
環境負荷物質使用状況	鉛 ^{※5}	使用部品	電子基盤、電気部品のはんだ、圧電素子等(PZTセンサー)	
	水銀 ^{※6}	使用部品	—	
	六価クロム	使用部品	—	
	カドミウム	使用部品	—	

ライフ

車種名		ライフ					
代表記載タイプ		C		G		PASTEL	
発売日		2008年11月6日					
型式		DBA-JC1	CBA-JC2	DBA-JC1	CBA-JC2	DBA-JC1	CBA-JC2
エンジン(原動機)型式		P07A					
エンジン総排気量(cm ³)		658					
駆動方式 ^{*1}		FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD
駆動装置		電子制御 4速オートマチック		電子制御 4速オートマチック		電子制御 4速オートマチック	
車両重量(kg)		810	890	810	890	830	910
排出ガス		平成17年排出ガス規制適合 ^{*2} 国土交通省「低排出ガス車認定制度」認定レベル ^{*3}					
	CO	★★★★	★★★	★★★★	★★★	★★★★	★★★
	10・15+11モード NMHC	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
	10・15+11モード NOx	0.013	0.025	0.013	0.025	0.013	0.025
	10・15+11モード PM	—	—	—	—	—	—
燃料消費率		10・15モード燃費(km/L)					
	CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	21.0	19.0	21.0	19.4	21.0	19.4
	平成22年度燃費基準値達成	○	○	○	○	○	○
	平成22年度燃費基準値+5%達成	○	○	○	○	○	○
	平成22年度燃費基準値+10%達成	○	○	○	○	○	○
	平成22年度燃費基準値+15%達成	○	○	○	○	○	○
	平成22年度燃費基準値+20%達成	○	○	○	○	○	○
	平成22年度燃費基準値+25%達成	○	○	○	○	○	○
	燃費計 ^{*4} 装着状況	○					
地方自治体指定低公害車への指定状況		八都府市					
グリーン購入法適合機種		京阪神七府県市					
グリーン税制対象機種		—					
騒音(国交省審査値)		近接dB(A)/原動機回転速度(rpm)		79/4,200		78/4,200	
	加速dB(A)	72	72	72	72	72	72
	定常dB(A), 50km/h	67	67	67	67	67	67
エアコン		代替フロン134a:使用量(g)					
	車室内VOC	370					
環境負荷物質削減		自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)					
	鉛 ^{*5}	自工会2006年目標達成(1996年使用量の1/10)					
	水銀 ^{*6}	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)					
	六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)					
	カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)					
リサイクル		リサイクル可能率 ^{*7}					
	樹脂、ゴム部品への材料表示	車全体で90%以上					
	リサイクルし易い材料を使用した部品	樹脂、ゴム部品に可能な限り全て					
	再生材を使用している部品	アンダーコート、インナーウェザーストリップ、ウインドウモール、オープニングトリム、カウルトップガーニッシュ、グローブボックス、シフトノブ、センターコンソール、ダストシーラー、ドアライニング、バンパーフェース、ピラーガーニッシュ、マスタックシーラー、ルーフモールなどの内外装部品					
環境負荷物質使用状況		エアアウトレット、スブラッシュガード、バッテリーボックス、吸音材					
	鉛 ^{*5}	使用部品	電子基盤、電気部品のはんだ、圧電素子等(PZTセンサー)				
	水銀 ^{*6}	使用部品	—				
	六価クロム	使用部品	—				
	カドミウム	使用部品	—				

*1: [FF]…前輪駆動車、[4WD]…四輪駆動車

*2: 乗用車、軽量車における新長期排出ガス規制に対する適合

*3: [★★★★]…「平成17年排出ガス基準に対し50%低減レベル」認定車、[★★★★★]…「平成17年排出ガス基準に対し75%低減レベル」認定車

*4: 瞬時燃費計、平均燃費計、ECOランプなどのエコドライブ支援装置

*5: 鉛(バッテリー(リサイクル回収ルートが確立されているため除外)、1996年乗用車の業界平均使用量は1850g(バッテリーを除く))

*6: ナビゲーションなどの液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージヘッドランプ、室内蛍光灯(交通安全上必須な部品の極微量使用を除外)

*7: (社)日本自動車工業会「新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン」による

注) 燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時には、この条件(気象、道路、車両、運転、整備などの状況)が異なってきますので、それに応じて燃料消費率が異なります。

車種名	ライフ							
代表記載タイプ	PASTELターボ		DIVA		DIVAターボ			
発売日	2008年11月6日							
型式	DBA-JC1	CBA-JC2	DBA-JC1	CBA-JC2	DBA-JC1	CBA-JC2		
エンジン(原動機)型式	P07A							
エンジン総排気量(cm ³)	658							
駆動装置	駆動方式 ^{*1}	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	
	変速機	電子制御 4速オートマチック		電子制御 4速オートマチック		電子制御 4速オートマチック		
車両重量(kg)	850	930	840	920	870	940		
排出ガス	平成17年排出ガス規制適合 ^{*2}	○						
	国土交通省「低排出ガス車認定制度」認定レベル ^{*3}	★★★★	★★★	★★★★	★★★	★★★★	★★★	
	CO	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	
	10・15+11モード NMHC	0.013	0.025	0.013	0.025	0.013	0.025	
	国土交通省届出値(g/km) NOx	0.013	0.025	0.013	0.025	0.013	0.025	
	PM	—	—	—	—	—	—	
燃料消費率	10・15モード燃費(km/L)	19.6	17.8	20.0	19.4	19.6	17.8	
	CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	118.5	130.4	116.1	119.7	118.5	130.4	
	平成22年度燃費基準値達成							
	平成22年度燃費基準値+5%達成	○	○		○	○		
	平成22年度燃費基準値+10%達成			○				
	平成22年度燃費基準値+15%達成							
	平成22年度燃費基準値+20%達成							
	平成22年度燃費基準値+25%達成							
燃費計 ^{*4} 装着状況				○				
地方自治体指定低 公害車への指定状況	八都県市			○				
	京阪神七府県市			○				
グリーン購入法適合機種				○				
グリーン税制対象機種				—				
騒音(国交省審査値)	近接dB(A)/原動機回転速度(rpm)	79/4,200	78/4,200	79/4,200	78/4,200	79/4,200	78/4,200	
	加速dB(A)	73	73	72	72	73	73	
	定常dB(A), 50km/h	67	67	67	67	67	67	
エアコン	代替フロン134a:使用量(g)	370						
車室内VOC	自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)							
環境負荷物質削減	鉛 ^{*5}	自工会2006年目標達成(1996年使用量の1/10)						
	水銀 ^{*6}	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)						
	六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)						
	カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)						
リサイクル	リサイクル可能率 ^{*7}	車全体で90%以上						
	樹脂、ゴム部品への材料表示	樹脂、ゴム部品に可能な限り全て						
	リサイクルし易い材料を使用した部品	アンダーコート、インナーウェザーストリップ、ウインドウモール、オープニングトリム、カウルトップガーニッシュ、グローブボックス、シフトノブ、センターコンソール、ダストシーラー、ドアライニング、バンパーフェース、ピラーガーニッシュ、マスタックシーラー、ルーフモールなどの内外装部品						
再生材を使用している部品	エアアウトレット、スブラッシュガード、バッテリーボックス、吸音材							
環境負荷物質使用状況	鉛 ^{*5}	使用部品	電子基盤、電気部品のはんだ、圧電素子等(PZTセンサー)					
	水銀 ^{*6}	使用部品	—					
	六価クロム	使用部品	—					
	カドミウム	使用部品	—					

アコード

車種名		アコード			
代表記載タイプ		24iL	24TL	24TL SPORTS STYLE	24E
発売日		2008年12月4日			
型式		DBA-CU2			
エンジン(原動機)型式		K24A			
エンジン総排気量(cm ³)		2,354			
駆動装置	駆動方式 ^{※1}	FF			
	変速機	5速オートマチック			
車両重量(kg)		1,520	1,510	1,520	1,500
排出ガス	平成17年排出ガス規制適合 ^{※2}	○			
	国土交通省「低排出ガス車認定制度」認定レベル ^{※3}	★★★★			
	CO	0.8			
	JC08H+JC08Cモード NMHC	0.013			
	国土交通省届出値(g/km) NOx	0.013			
	PM	—			
燃料消費率	10・15モード燃費(km/L)	11.4	11.8	11.4	11.8
	CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	203.7	196.8	203.7	196.8
	平成22年度燃費基準値達成				
	平成22年度燃費基準値+5%達成	○		○	
	平成22年度燃費基準値+10%達成				
	平成22年度燃費基準値+15%達成				
	平成22年度燃費基準値+20%達成				
	平成22年度燃費基準値+25%達成				
燃費計 ^{※4} 装着状況		○			
JC08モード燃費(km/L)		11.2			
CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉		207.3			
地方自治体指定低公害車への指定状況	八都府市	○			
	京阪神七府県市	○			
グリーン購入法適合機種		○			
グリーン税制対象機種		—			
騒音(国交省審査値)	近接dB(A)/原動機回転速度(rpm)	85/4,600			
	加速dB(A)	75			
	定常dB(A), 50km/h	70			
エアコン	代替フロン134a:使用量(g)	450			
車室内VOC		自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)			
環境負荷物質削減	鉛 ^{※5}	自工会2006年目標達成(1996年使用量の1/10)			
	水銀 ^{※6}	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)			
	六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)			
	カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)			
リサイクル	リサイクル可能率 ^{※7}	車全体で90%以上			
	樹脂、ゴム部品への材料表示	樹脂、ゴム部品に可能な限り全て			
	リサイクルし易い材料を使用した部品	アンダーコート、インナーウェザーストリップ、ウインドウモール、オープニングトリム、カウルトップガーニッシュ、グローブボックス、センターコンソール、ダストシーラー、ドアライニング、バンパーフェース、ピラーガーニッシュ、マスタックシーラー、ルーフモールなどの内外装部品			
	再生材を使用している部品	アンダーカバー、エアアウトレット、エアコンダクト、バッテリーボックス、吸音材			
環境負荷物質使用状況	鉛 ^{※5}	使用部品	電子基盤、電気部品のはんだ、圧電素子等(PZTセンサー)		
	水銀 ^{※6}	使用部品	—		
	六価クロム	使用部品	—		
	カドミウム	使用部品	—		

※1: 「FF」…前輪駆動車、「4WD」…四輪駆動車

※2: 乗用車、軽量車における新長期排出ガス規制に対する適合

※3: 「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し50%低減レベル」認定車、「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し75%低減レベル」認定車

※4: 瞬時燃費計、平均燃費計、ECOランプなどのエコドライブ支援装置

※5: 鉛バッテリー(リサイクル回収ルートが確立されているため除外)、1996年乗用車の業界平均使用量は1850g(バッテリーを除く)

※6: ナビゲーションなどの液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージヘッドランプ、室内蛍光灯(交通安全上必須な部品の極微量使用を除外)

※7: (社)日本自動車工業会「新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン」による

注) 燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時には、この条件(気象、道路、車両、運転、整備などの状況)が異なってきますので、それに応じて燃料消費率が異なります。

アコードツアラー

車種名		アコードツアラー			
代表記載タイプ		24iL	24TL	SPORTS STYLE	24E
発売日		2008年12月4日			
型式		DBA-CW2			
エンジン(原動機)型式		K24A			
エンジン総排気量(cm ³)		2,354			
駆動装置	駆動方式 ^{※1}	FF			
	変速機	5速オートマチック			
車両重量(kg)		1,590	1,580	1,590	1,560
排出ガス	平成17年排出ガス規制適合 ^{※2}	○			
	国土交通省「低排出ガス車認定制度」認定レベル ^{※3}	★★★★			
	CO	0.8			
	JC08H+JC08Cモード NMHC	0.013			
	国土交通省届出値(g/km) NOx	0.013			
	PM	—			
燃料消費率	10・15モード燃費(km/L)	11.4			
	CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	203.7			
	平成22年度燃費基準値達成				
	平成22年度燃費基準値+5%達成	○			
	平成22年度燃費基準値+10%達成				
	平成22年度燃費基準値+15%達成				
	平成22年度燃費基準値+20%達成				
	平成22年度燃費基準値+25%達成				
	燃費計 ^{※4} 装着状況	○			
	JC08モード燃費(km/L)	11.0			
CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	211.1				
地方自治体指定低公害車への指定状況	八都府市	○			
	京阪神七府県市	○			
グリーン購入法適合機種		○			
グリーン税制対象機種		—			
騒音(国交省審査値)	近接dB(A)/原動機回転速度(rpm)	85/4,600			
	加速dB(A)	75			
	定常dB(A), 50km/h	70			
エアコン	代替フロン134a:使用量(g)	450			
車室内VOC		自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)			
環境負荷物質削減	鉛 ^{※5}	自工会2006年目標達成(1996年使用量の1/10)			
	水銀 ^{※6}	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)			
	六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)			
	カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)			
リサイクル	リサイクル可能率 ^{※7}	車全体で90%以上			
	樹脂、ゴム部品への材料表示	樹脂、ゴム部品に可能な限り全て			
	リサイクルし易い材料を使用した部品	アンダーコート、インナーウェザーストリップ、ウインドウモール、オープニングトリム、カウルトップガーニッシュ、グローブボックス、センターコンソール、ダストシーラー、ドアライニング、バンパーフェース、ピラーガーニッシュ、マスタックシーラーなどの内外装部品			
	再生材を使用している部品	アンダーカバー、エアアウトレット、エアコンダクト、バッテリーボックス、吸音材			
環境負荷物質使用状況	鉛 ^{※5}	使用部品	電子基盤、電気部品のはんだ、圧電素子等(PZTセンサー)		
	水銀 ^{※6}	使用部品	—		
	六価クロム	使用部品	—		
	カドミウム	使用部品	—		

※1: 「FF」…前輪駆動車、「4WD」…四輪駆動車

※2: 乗用車、軽量車における新長期排出ガス規制に対する適合

※3: 「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し50%低減レベル」認定車、「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し75%低減レベル」認定車

※4: 瞬時燃費計、平均燃費計、ECOランプなどのエコドライブ支援装置

※5: 鉛バッテリー(リサイクル回収ルートが確立されているため除外)、1996年乗用車の業界平均使用量は1850g(バッテリーを除く)

※6: ナビゲーションなどの液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージヘッドランプ、室内蛍光灯(交通安全上必須な部品の極微量使用を除外)

※7: (社)日本自動車工業会「新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン」による

注) 燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時には、この条件(気象、道路、車両、運転、整備などの状況)が異なってきますので、それに応じて燃料消費率が異なります。

インサイト

車種名		インサイト		
代表記載タイプ		G	L	LS
発売日		2009年2月5日		
型式		DAA-ZE2		
エンジン(原動機)型式		LDA-MF6		
エンジン総排気量(cm ³)		1,339		
駆動装置	駆動方式 ^{※1} 変速機	FF 無段変速オートマチック		
車両重量(kg)		1,190		1,200
排出ガス	平成17年排出ガス規制適合 ^{※2}		○	
	国土交通省「低排出ガス車認定制度」認定レベル ^{※3}		★★★★	
	CO		0.4	
	10・15+JC08Cモード 国土交通省届出値(g/km)	NMHC	0.013	
		NOx	0.013	
	PM	—		
燃料消費率	10・15モード燃費(km/L)	30.0		28.0
	CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	77.4		82.9
	平成22年度燃費基準値達成			
	平成22年度燃費基準値+5%達成			
	平成22年度燃費基準値+10%達成			
	平成22年度燃費基準値+15%達成			
	平成22年度燃費基準値+20%達成			
	平成22年度燃費基準値+25%達成	○		○
	燃費計 ^{※4} 装着状況		○	
	JC08モード燃費(km/L)	26.0		24.0
CO ₂ 排出量(g/km)〈燃費からの換算値〉	89.3		96.7	
地方自治体指定低公害車への指定状況	八都府市		○	
	京阪神七府県市		○	
グリーン購入法適合機種			○	
グリーン税制対象機種			○	
騒音(国交省審査値)	近接dB(A)/原動機回転速度(rpm)		79/4,350	
	加速dB(A)		72	
	定常dB(A), 50km/h		69	
エアコン	代替フロン134a:使用量(g)		500	
車室内VOC		自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)		
環境負荷物質削減	鉛 ^{※5}	自工会2006年目標達成(1996年使用量の1/10)		
	水銀 ^{※6}	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)		
	六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)		
	カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)		
リサイクル	リサイクル可能率 ^{※7}	車全体で95%以上		
	樹脂、ゴム部品への材料表示	樹脂、ゴム部品に可能な限り全て		
	リサイクルし易い材料を使用した部品	アンダーコート、インナーウエザーストリップ、ウインドウモール、エアフローチューブ、エンジンハーネス、オープニングトリム、カウルトップガーニッシュ、グローブボックス、サンバイザー、シート表皮、センターコンソール、ドアモール、ドアライニング、バンパーフェース、ビラーガーニッシュ、マスチックシーラー、ルーフモールなどの内外装部品		
	再生材を使用している部品	バッテリーボックス、吸音材		
環境負荷物質使用状況	鉛 ^{※5}	使用部品	電子基盤、電気部品のはんだ、圧電素子等(PZTセンサー)	
	水銀 ^{※6}	使用部品	—	
	六価クロム	使用部品	—	
	カドミウム	使用部品	—	

※1: 「FF」…前輪駆動車、「4WD」…四輪駆動車

※2: 乗用車、軽量車における新長期排出ガス規制に対する適合

※3: 「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し50%低減レベル」認定車、「★★★★」…「平成17年排出ガス基準に対し75%低減レベル」認定車

※4: 瞬時燃費計、平均燃費計、ECOランプなどのエコドライブ支援装置

※5: 鉛バッテリー(リサイクル回収ルートが確立されているため除外)、1996年乗用車の業界平均使用量は1850g(バッテリーを除く)

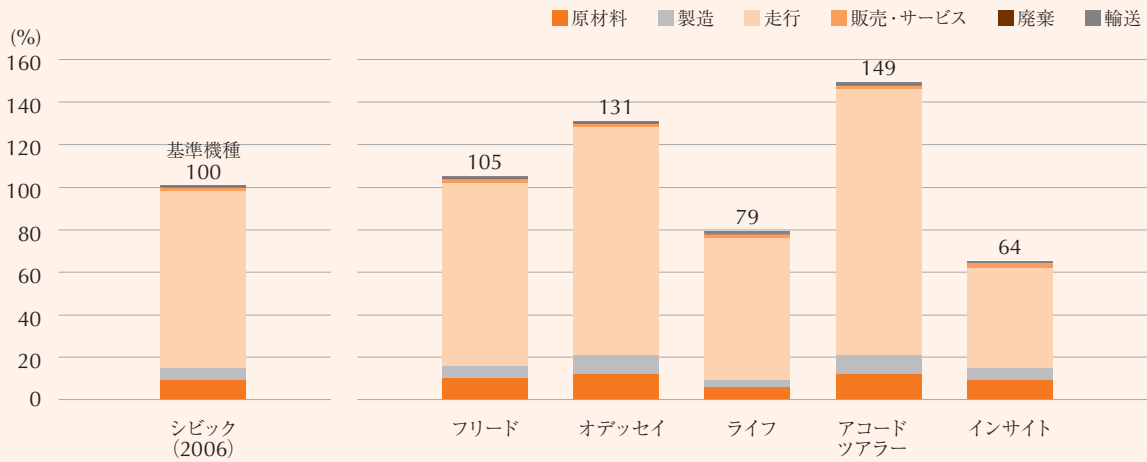
※6: ナビゲーションなどの液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージヘッドランプ、室内蛍光灯(交通安全上必須な部品の極微量使用を除外)

※7: (社)日本自動車工業会「新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン」による

注) 燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時には、この条件(気象、道路、車両、運転、整備などの状況)が異なってきますので、それに応じて燃料消費率が異なります。

四輪機種LCA

四輪車の機種LCA結果



〈参考〉 関連する規制値

国内自動車排出ガス規制値 (g/km)

項目	乗用車、軽量車	軽貨物車
	平成17年排出ガス規制値	平成19年排出ガス規制値
CO(一酸化炭素)	1.15	4.02
NMHC(非メタン炭化水素)	0.05	0.05
NOx(窒素酸化物)	0.05	0.05

国土交通省低排出ガス車認定基準 (g/km)

項目	乗用車、軽量車		軽貨物車	
	平成17年排出ガス基準50%低減レベル (★★★)	平成17年排出ガス基準75%低減レベル (★★★★)	平成17年排出ガス基準50%低減レベル (★★★)	平成17年排出ガス基準75%低減レベル (★★★★)
CO(一酸化炭素)	1.15	1.15	4.02	4.02
NMHC(非メタン炭化水素)	0.025	0.013	0.025	0.013
NOx(窒素酸化物)	0.025	0.013	0.025	0.013

平成22年度燃費基準値(ガソリン乗用車)

車両重量/課税重量(kg)	702	703 827	828 1,015	1,016 1,265	1,266 1,515	1,516 1,765	1,766 2,015	2,016 2,265	2,266
10・15モード燃費(km/L)	21.2	18.8	17.9	16.0	13.0	10.5	8.9	7.8	6.4
平成22年度燃費目標基準値	22.3	19.7	18.8	16.8	13.7	11.0	9.3	8.2	6.7
平成22年度燃費目標基準+5%値	23.3	20.7	19.7	17.6	14.3	11.6	9.8	8.6	7.0
平成22年度燃費目標基準+10%値	24.4	21.6	20.6	18.4	15.0	12.1	10.2	9.0	7.4
平成22年度燃費目標基準+15%値	25.4	22.6	21.5	19.2	15.6	12.6	10.7	9.4	7.7
平成22年度燃費目標基準+20%値	26.5	23.5	22.4	20.0	16.3	13.1	11.1	9.8	8.0
平成22年度燃費目標基準+25%値									

平成22年度燃費目標基準値(ガソリン貨物車)(km/L)

自動車の種別	変速装置の方式	車両重量	自動車の構造	燃費基準値	燃費基準+15%値	燃費基準+20%値	燃費基準+25%値
軽貨物車	手動式	703kg未満	構造 A	20.2	23.2	24.2	25.3
			構造 B	17.0	19.6	20.4	21.3
		703kg以上 828kg未満	構造 A	18.0	20.7	21.6	22.5
			構造 B	16.7	19.2	20.0	20.9
	手動式以外のもの	828kg以上		15.5	17.8	18.6	19.4
				18.9	21.7	22.7	23.6
		703kg未満	構造 A	16.2	18.6	19.4	20.3
			構造 B	16.5	19.0	19.8	20.6
手動式	703kg以上 828kg未満	構造 A	15.5	17.8	18.6	19.4	
		構造 B	14.9	17.1	17.9	18.6	
	828kg以上		14.9	17.1	17.9	18.6	
			17.8	20.5	21.4	22.3	
車両総重量が 1.7トン以下のもの	手動式	1,016kg未満		15.7	18.1	18.8	19.6
		1,016kg以上		14.9	17.1	17.9	18.6
	手動式以外のもの	1,016kg未満		13.8	15.9	16.6	17.3
		1,016kg以上		14.5	16.7	17.4	18.1
車両総重量が 1.7トン超 2.5トン以下のもの	手動式	1,266kg未満	構造 A	12.3	14.1	14.8	15.4
			構造 B	10.7	12.3	12.8	13.4
		1,266kg以上 1,516kg未満		9.3	10.7	11.2	11.6
				12.5	14.4	15.0	15.6
	手動式以外のもの	1,266kg未満	構造 A	11.2	12.9	13.4	14.0
			構造 B	10.3	11.8	12.4	12.9
		1,266kg以上		10.3	11.8	12.4	12.9
				12.5	14.4	15.0	15.6

国内自動車騒音規制値

項目	乗用車	軽貨物車/軽量貨物車
近接排気 基準値 dB(A)	96	97
加速走行 基準値 dB(A)	76	76
定常走行 基準値 dB(A)	72	74

二輪車環境データ

CBR1000RR

機種名	CBR1000RR		
発売日	2008年6月20日		
形式	EBL-SC59		
エンジン型式及び形式	SC59E 水冷4ストローク DOHC4バルブ4気筒		
総排気量 (cm ³)	999		
トランスミッション	常時噛合式6段リターン		
車両重量(kg)	201		
環境性能情報	排出ガス (国交省審査値)	CO(g/km)	2.0
		HC(g/km)	0.30
		NOx(g/km)	0.15
	燃費	60km定地走行テスト値	24.5
		30km定地走行テスト値	—
	騒音 (国交省審査値)	近接排気 基準値/届出値 dB(A)	94/92(4,750rpm)
		加速走行 基準値/届出値 dB(A)	73/72
		定常走行 基準値/届出値 dB(A)	72/70(50km/h)
	環境負荷物質	鉛の使用削減	自工会2006年目標達成済(60g以下)
		水銀の使用削減	自工会目標達成済
六価クロムの使用削減		自工会目標達成済(2008年以降使用禁止)	
カドミウムの使用削減		自工会目標達成済(2007年以降使用禁止)	
リサイクルへの取り組み	1992年から新規開発機種ごとに3R事前評価システムに基づいてチェックを実施し、その向上を図っています。又、可能な限り小さな樹脂部品にまで材料名表記を実施しています。 軽量化によるリデュース技術として、CBR600RRでも採用したりサイクル性に優れた薄肉中空アルミダイキャストフレームを適用拡大しました。		

シャドウ〈400〉

機種名	シャドウ〈400〉		
発売日	2008年10月21日		
形式	EBL-NC44	EBL-NC45	
エンジン型式及び形式	NC44E 水冷4ストローク OHC3バルブV型2気筒		
総排気量 (cm ³)	398		
トランスミッション	常時噛合式5段リターン		
車両重量(kg)	255	244	
環境性能情報	排出ガス (国交省審査値)	CO(g/km)	2.0
		HC(g/km)	0.30
		NOx(g/km)	0.15
	燃費	60km定地走行テスト値	40.0
		30km定地走行テスト値	—
	騒音 (国交省審査値)	近接排気 基準値/届出値 dB(A)	94/88 (3,500rpm)
		加速走行 基準値/届出値 dB(A)	73/72
		定常走行 基準値/届出値 dB(A)	72/69 (50km/h)
	環境負荷物質	鉛の使用削減	自工会目標達成済(60g以下)
		水銀の使用削減	自工会目標達成済
六価クロムの使用削減		自工会目標達成済	
カドミウムの使用削減		自工会目標達成済	
リサイクルへの取り組み	1992年から新規開発機種ごとに3R事前評価システムに基づいてチェックを実施し、その向上を図っています 可能な限り小さな樹脂部品にまで材料名表記を実施		

モンキー

機種名	モンキー		
発売日	2009年1月9日		
形式	JBH-AB27		
エンジン型式及び形式	AB28E 空冷4ストローク OHC単気筒		
総排気量 (cm ³)	49		
トランスミッション	常時噛合式4段リターン		
車両重量 (kg)	68		
環境性能情報	排出ガス (国交省審査値)	CO(g/km)	2.0
		HC(g/km)	0.50
		NOx(g/km)	0.15
	燃費	60km定地走行テスト値	—
		30km定地走行テスト値	100.0
	騒音 (国交省審査値)	近接排気 基準値/届出値 dB(A)	84/81 (4,250rpm)
		加速走行 基準値/届出値 dB(A)	71/70
		定常走行 基準値/届出値 dB(A)	65/64 (25km/h)
	環境負荷物質	鉛の使用削減	自工会目標達成済 (60g以下)
		水銀の使用削減	自工会目標達成済
六価クロムの使用削減		自工会目標達成済	
カドミウムの使用削減		自工会目標達成済	
リサイクルへの取り組み	1992年から新規開発機種ごとに3R事前評価システムに基づいてチェックを実施し、その向上を図っています 可能な限り小さな樹脂部品にまで材料名表記を実施		

シルバーウイングGT<400>

機種名	シルバーウイングGT<400>		
発売日	2009年3月9日		
形式	EBL-NF03		
エンジン型式及び形式	NF01E 水冷4ストローク DOHC4バルブ2気筒		
総排気量 (cm ³)	398		
トランスミッション	無段変速式(Vマチック)		
車両重量 (kg)	249		
環境性能情報	排出ガス (国交省審査値)	CO(g/km)	2.0
		HC(g/km)	0.30
		NOx(g/km)	0.15
	燃費	60km定地走行テスト値	32.0
		30km定地走行テスト値	—
	騒音 (国交省審査値)	近接排気 基準値/届出値 dB(A)	94/89 (4,000rpm)
		加速走行 基準値/届出値 dB(A)	73/72
		定常走行 基準値/届出値 dB(A)	72/70 (50km/h)
	環境負荷物質	鉛の使用削減	自工会目標達成済 (60g以下)
		水銀の使用削減	自工会目標達成済
六価クロムの使用削減		自工会目標達成済	
カドミウムの使用削減		自工会目標達成済	
リサイクルへの取り組み	1992年から新規開発機種ごとに3R事前評価システムに基づいてチェックを実施し、その向上を図っています 可能な限り小さな樹脂部品にまで材料名表記を実施		

〈参考〉関連する規制値

国内二輪車排出ガス規制値(g/km)

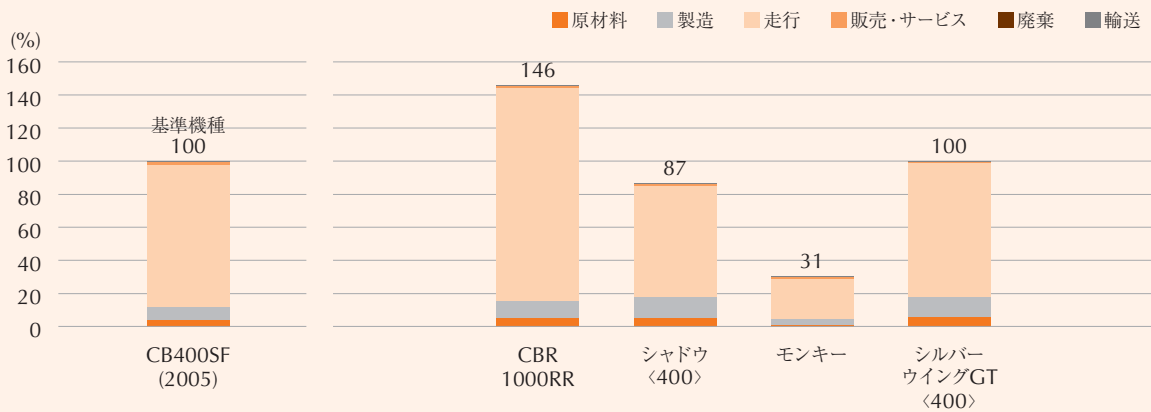
項目	第一種 原動機付自転車 (50cc以下)	第二種 原動機付自転車 (50cc超125cc以下)	軽二輪自動車 (125cc超250cc以下)	小型二輪自動車 (250cc超)
CO(一酸化炭素)	2.0	2.0	2.0	2.0
HC(炭化水素)	0.50	0.50	0.30	0.30
NOx(窒素酸化物)	0.15	0.15	0.15	0.15

国内二輪車騒音規制値

項目	単位	第一種 原動機付自転車 (50cc以下)	第二種 原動機付自転車 (50cc超125cc以下)	軽二輪自動車 (125cc超250cc以下)	小型二輪自動車 (250cc超)
定常走行 基準値	dB(A)	65	68	71	72
近接排気 基準値	dB(A)	84	90	94	94
加速走行 基準値	dB(A)	71	71	73	73

二輪機種LCA

二輪車の機種LCA結果



汎用製品環境データ

ユキオス

機種名	SB800	
発売日	2008.10.23	
形式	SAMJ	
エンジン型式及び形式	GXV50 空冷4ストローク 単気筒OHV	
総排気量 (cm ³)	49.4	
車両重量 (kg)	61	
連続運転可能時間 (hr)	3	
燃費	燃料消費率 [g/kWh]	—
排出ガス	EPA Phase2汎用エンジン 排出ガス規制への適合 ^{*1}	○
	CARB Tier3汎用エンジン 排出ガス規制への適合 ^{*1}	○
	日本陸用内燃機関協会 自主規制への適合	○
騒音	EU騒音保証値LWA	—
	耳元騒音LPA	—

※同一機種において、アメリカの排出ガス認可を取得していますが、国内出荷分については記載の排出ガス値を保証するものではありません。

ピアンタ

機種名	FV200	
発売日	2009.02.12	
形式	FBCJ	
エンジン型式及び形式	GXV50 空冷4ストローク 単気筒OHV	
総排気量 (cm ³)	49.4	
車両重量 (kg)	20	
連続運転可能時間 (hr)	1	
燃費	燃料消費率 [g/kWh]	—
排出ガス	EPA Phase2汎用エンジン 排出ガス規制への適合 ^{*1}	○
	CARB Tier3汎用エンジン 排出ガス規制への適合 ^{*1}	○
	日本陸用内燃機関協会 自主規制への適合	○
騒音	EU騒音保証値LWA	—
	耳元騒音LPA	—

※同一機種において、アメリカの排出ガス認可を取得していますが、国内出荷分については記載の排出ガス値を保証するものではありません。

〈参考〉関連する規制値

汎用エンジンの排出ガス規制値

項目	ノンハンドヘルド 66cc未満	ノンハンドヘルド 100～225cc
該当機種	SB800	F530(GX160)、F730(GX200)、FR316(GX120)、 FR716(GX200)、HRG415C3(GCV135)、 HRG465C3(GCV135)、FU655L(GX160)、FU755L(GX200)
EPA規制 (Phase2) (g/kW-hr)	CO(耐久劣化込み)	610
	HC+NOx(耐久劣化込み)	50
		603
		72

項目	50cc未満	80～225cc ホリゾンタル	80～225cc パーチャル
該当機種	SB800	F530(GX160)、F730(GX200)、 FR316(GX120)、FR716(GX200)、 FU655L(GX160)、FU755L(GX200)	HRG415C3(GCV135) HRG465C3(GCV135)
CARB規制 (Tier3) (g/kW-hr)	CO(耐久劣化込み)	536	549
	HC+NOx(耐久劣化込み)	50	10
		549	
		10	

項目	ノンハンドヘルド 66cc未満	ノンハンドヘルド 100～225cc	
該当機種	SB800	F530(GX160)、F730(GX200)、FR316(GX120)、 FR716(GX200)、HRG415C3(GCV135)、 HRG465C3(GCV135)、FU655L(GX160)、 FU755L(GX200)	
日本陸用内燃機関協会 自主規制 (g/kW-hr)	2003年1次規制値 (新エンジン規制)	CO	519
		HC+NOx	50
	2008年2次規制値 (インユース規制) ^{*1}	CO(耐久劣化込み)	610 ^{*2}
		HC+NOx(耐久劣化込み)	50 ^{*2}
			16.1
			610 ^{*2}
			16.1 ^{*2}

※1: 規定の累積運転時間内においてクリアしなければならない規制値

※2: 2008年からの適用

ISO・EMAS取得状況

日本地域

国名	事業所名	ISO14001 取得時期
日本	浜松製作所	1997. 4
	栃木製作所	1997. 9
	熊本製作所	1997.11
	埼玉製作所	1998. 1
	鈴木製作所	1998. 2
	本社青山ビル	1999.11
	和光ビル	2005.11
	白子ビル	2008.11
	ホンダエンジニアリング(株)	1997. 9

北米地域と南米地域 (生産領域)

国名	事業所名	ISO14001 取得時期
米国	East Liberty Auto Plant	1998. 9
	Marysville Auto Plant	1998.12
	Marysville Motorcycle Plant	1998.12
	Anna Engine Plant	1998.12
	Honda Transmission Mfg. of America, Inc.	1998. 6
	Honda Power Equipment Mfg., Inc.	2002. 5
	Honda of South Carolina Mfg., Inc.	2004. 1
	Honda Mfg. of Alabama L.L.C.	2006. 2
カナダ	Honda of Canada Mfg. Plant 1	1998. 9
	Plant 2	1999.10
メキシコ	Honda de Mexico, S.A. de C.V.	1999.12
ブラジル	Moto Honda da Amazonia Ltda.	1999.10
	Honda Automoveis do Brasil Ltda.	2005. 3

欧州地域 (生産領域)

国名	事業所名	ISO14001 取得時期	EMAS 取得時期
英国	Honda of the U.K. Mfg., Ltd.	1998.3	2002.3
ベルギー	Honda Europe N.V.	1998.3 (完成車物流)	2005.1
		1999.6 (HE)	
	Honda Belgium N.V.	1997.3	2000.3
イタリア	Honda Italia Industriale S.p.A. (ATESSA)	1999.1	2007.10
	CIAP S.p.A.	1999.6	(推進中)
スペイン	Montesa Honda S.A.	1998.12	2008.3
フランス	Honda Europe Power Equipment S.A.	1999.1	2002.11
トルコ	Honda Turkiye A.S.	1999.12	2007.4

アジア・大洋州地域 (生産領域)

国名	事業所名	ISO14001 取得時期
タイ	Honda Automobile (Thailand) Co., Ltd.	1998.12
	Thai Honda Mfg. Co., Ltd.	1998.12
	Asian Autoparts Co., Ltd.	2001.12
フィリピン	Honda Cars Phillipines, Inc.	1998.12
	Honda Parts Mfg. Co.	2006. 3
	Honda Philippines, Inc.	2008. 3
インド	Hero Honda Motors Ltd.	1999. 6
	Honda Siel Power Products Ltd.	1999.12
	Honda Siel Cars India Ltd.	2001. 4
	Honda Motorcycle and Scooter India (Private) Ltd.	2002.12
インドネシア	P.T. Astra Honda Motor	2000. 9
	P.T. Honda Prospect Motor	2005. 1
	P.T. Honda Precision Parts Mfg.	2005. 4
パキスタン	Honda Atlas Cars (Pakistan) Ltd.	2003. 9
ベトナム	Honda Vietnam Co., Ltd.	2001. 9
	Machino Auto-Parts Co.,Ltd	2006.12
マレーシア	Honda Autoparts Mfg., SDN. BHD.	2003.12
	Honda Malaysia Sdn.Bhd.	2007. 4
台湾	Honda Taiwan Co., Ltd.	2006. 3

中国地域 (生産領域)

国名	事業所名	ISO14001 取得時期	
中国	東風本田発動機有限公司	2001.11	
	広州本田汽車有限公司	黄埔工場	2001.11
		增城工場	2008. 1
	五羊-本田摩托(広州)有限公司	2002. 1	
	新大洲本田摩托有限公司	(海南)	2001. 1
		(天津)	2006. 4
		(上海)	2006. 4
	福建閩東本田発電機組有限公司	2005. 9	
	東風本田汽車零部件有限公司	2006. 6	
	本田汽車(中国)有限公司	2006.11	
	東風本田汽車有限公司	2006.12	
嘉陵-本田発動機有限公司	2006.12		

国内事業所データ

- 水質汚濁防止法、地方自治体条例により測定を義務づけられた項目を記載
- 記載項目は月度データの統計処理の値。その他記載のない物質についても随時測定を行い規制値以下を確認しています
- 大気汚染防止法、地方自治体条例により測定を義務づけられた項目を記載
- 設備対象は、ボイラー、乾燥炉、焼却炉、その他

本田技研工業株式会社

埼玉製作所

所在地(住所)：埼玉県狭山市新狭山1-10-1

設立年：1964年

主要製品：レジェンド・オデッセイ・CRV・アコード等

従業員数(2009年3月末現在)：5,571人

水の放流先：下水道(生活・工業排水)・入間川(間接冷却水)

ISO14001取得年月：1998年1月

水質

生活・工業排水(下水道放流)

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5~9	5~9	7.6 (6.4)	7.0
生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600	360	300 (67)	201
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	下水道は対象外			
浮遊物質(SS)	mg/L	600	360	84 (18)	35.5
油分含有量	mg/L	30	18	11 (3)	6.1
フェノール類	mg/L	5	3	0.2 (0.1未満)	0.1未満
銅及びその化合物	mg/L	3	2	0.1未満	0.1未満
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	2	0.4 (0.2)	0.2
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	6	0.5未満	0.5未満
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	6	3.2 (1.2)	2.3
全クロム	mg/L	2	1.2	0.05未満	0.05未満
フッ素含有量	mg/L	8	5	3.8 (1.6)	2.4
大腸菌群数	個/cm ³	下水道放流のため対象外			
窒素含有量	mg/L	240	150	23 (20)	21.5
燐含有量	mg/L	32	20	19 (0.4)	9.6
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.1	0.06	0.01未満	0.01未満
シアン化合物	mg/L	1	0.6	0.1未満	0.1未満
有機リン化合物	mg/L	1	0.6	0.1未満	0.1未満
鉛及びその化合物	mg/L	0.1	0.06	0.01未満	0.01未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.3	0.05未満	0.05未満
砒素及びその化合物	mg/L	0.1	0.06	0.01未満	0.01未満
水銀及びその化合物	mg/L	0.005	0.003	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.003	0.0018	0.001未満	0.001未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0.18	0.001未満	0.001未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.1	0.06	0.001未満	0.001未満
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.12	0.02未満	0.02未満
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.012	0.002未満	0.002未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.024	0.004未満	0.004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.12	0.02未満	0.02未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.24	0.04未満	0.04未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	3	1.8	0.001未満	0.001未満
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.036	0.006未満	0.006未満
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.02	0.012	0.002未満	0.002未満
チウラム	mg/L	0.06	0.036	0.006未満	0.006未満
シマジン	mg/L	0.03	0.018	0.003未満	0.003未満
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.12	0.02未満	0.02未満
ベンゼン	mg/L	0.1	0.06	0.01未満	0.01未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.06	0.01未満	0.01未満

間接冷却水(河川放出)

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	5.8~8.6	7.7 (6.9)	7.3
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25	15	3.7 (0.6)	1.6
化学的酸素要求量	mg/L	30	18	5.2 (0.5未満)	2.0
浮遊物質	mg/L	60	36	17 (10未満)	7.3
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	mg/L	5	3	2.0未満	2.0未満
鉛及びその化合物	mg/L	0.1	0.06	0.01未満	0.01未満

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.025	0.002 未満	0.002 未満
		0.10	0.05	0.002 未満	0.002 未満
		0.20	0.10	0.004 (0.002 未満)	0.002 未満
		0.25	0.125	0.007 (0.001 未満)	0.004
窒素酸化物	ppm	70	10	5.0 (4.5)	4.8
		150	75	65 (30)	47.8
		180	90	68 (44)	56.0
		230	115	70 (29)	48.5
	250	125	120 (120)	120	
塩化水素	mg/Nm ³	700	200	8.1 (5.0)	6.6
硫黄酸化物	Nm ³ /h	9.16	4.58	0.13 (0.09)	0.11
ダイオキシン類	ng-TEQ/Nm ³	2.5	1.25	0.12	0.12

有害大気

測定物質名称	規制基準 (ppm)	測定実績 (最大値を記入)
ニッケル	0.034	0.003 以下
マンガン	0.011	0.001 以下
ホルムアルデヒド	0.021	0.009
ベンゼン	0.11	0.01 以下

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
亜鉛の水溶性化合物	27,738	0	0	277	4,438	0	0	23,023
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	26,403	0	0	0	2,189	0	199	24,015
エチルベンゼン	355,359	161,709	0	0	0	127,371	19,429	46,850
エチレンジグリコール	1,492,920	0	0	0	0	0	0	1,492,920
キシレン	818,803	246,579	0	0	0	306,271	45,138	220,815
1,3,5-トリメチルベンゼン	57,281	31,081	0	0	0	0	5,399	20,801
トルエン	890,500	322,464	0	0	0	18,831	67,516	481,689
ニッケル化合物	5,197	0	0	1,195	883	0	0	3,119
ベンゼン	19,457	6	0	0	0	0	1,102	18,349
ポリ(オキシエチレン) =アルキルエーテル(アルキル基の炭 素数が12から15までのもの及び その混合物に限る。)	2,100	0	0	210	1,512	0	378	0
ホルムアルデヒド	1,707	1,707	0	0	0	0	0	0
マンガン及びその化合物	13,125	0	0	656	5,250	0	0	7,219
合計	3,710,590	763,546	0	2,338	14,272	452,473	139,161	2,338,800
ダイオキシン類(単位:mg-TEQ)	67.96	0.68		0	67.28	0	0	0

騒音

区分	単位	自主管理目標値	測定値
昼	dB	70	67
朝夕	dB	65	63
夜	dB	60	59

振動

区分	単位	自主管理目標値	測定値
昼	dB	60	44
夜	dB	55	43

悪臭

項目	単位	自主管理目標値	測定値
トルエン	ppm	30	0.11
キシレン	ppm	2	0.03
エチルベンゼン	ppm	—	0.03
敷地境界	単位	自主管理目標値	測定値
臭気濃度(敷地境界)	臭気指数	18	13以下

栃木製作所

所在地(住所)：栃木県真岡市松山町19
 設立年：1970年
 主要製品：エンジン部品、足回り部品
 従業員数(2009年3月末現在)：1,338人
 水の放流先：五行川經由小貝川
 ISO14001取得年月：1997年9月

水質

生活・工業排水(河川放流)

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	5.8~8.6	7.9 (7.1)	7.5
生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25	12.5	6.6 (0.1未満)	3.5
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	規制対象外	—	—	—
浮遊物質(SS)	mg/L	50	25	2.4 (1.0未満)	1.50
油分含有量	mg/L	5	2.5	2.4 (0.05未満)	1.80
フェノール類	mg/L	1	0.5	0.1未満 (0.05未満)	0.075未満
銅及びその化合物	mg/L	3	1.5	0.1未満 (0.05未満)	0.075未満
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1	0.9 (0.1未満)	0.3
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	1.5	0.6 (0.05未満)	0.09
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	1.5	0.2 (0.1)	0.1
全クロム	mg/L	2	1	0.1未満 (0.02未満)	0.06未満
フッ素含有量	mg/L	8	4	0.2未満 (0.2未満)	0.2未満
大腸菌群数	個/cm ³	3,000	1,500	250 (0)	14.7
窒素含有量	mg/L	120	60	18.8 (8.2)	12
燐含有量	mg/L	16	8	0.1未満 (0.05未満)	0.075未満
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満 (0.005未満)	0.0075未満
シアン化合物	mg/L	1	0.5	0.1未満 (0.05未満)	0.075未満
有機燐化合物	mg/L	1	0.5	0.1未満 (0.1未満)	0.1未満
鉛及びその化合物	mg/L	0.2	0.1	0.01未満 (0.01未満)	0.01未満
六価クロム化合物	mg/L	0.1	0.05	0.05未満 (0.02未満)	0.035未満
砒素及びその化合物	mg/L	0.5	0.25	0.01未満 (0.01未満)	0.01未満
水銀及びその化合物	mg/L	0.005	0.0025	0.0005未満 (0.0005未満)	0.0005未満
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.003	0.0015	0.0005未満 (0.0005未満)	0.0005未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0.15	0.001未満 (0.001未満)	0.001未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.1	0.05	0.001未満 (0.0005未満)	0.00075未満
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満 (0.002未満)	0.011未満
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.01	0.001未満 (0.001未満)	0.001未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.02	0.004未満 (0.0004未満)	0.0022未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満 (0.002未満)	0.011未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.2	0.04未満 (0.004未満)	0.022未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	3	1.5	0.001未満 (0.001未満)	0.001未満
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.03	0.006未満 (0.0006未満)	0.0033未満
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.02	0.01	0.002未満 (0.0002未満)	0.0011未満
チウラム	mg/L	0.06	0.03	0.006未満 (0.001未満)	0.0035未満
シマジン	mg/L	0.03	0.015	0.003未満 (0.001未満)	0.002未満
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.1	0.02未満 (0.002未満)	0.011未満
ベンゼン	mg/L	0.1	0.05	0.01未満 (0.001未満)	0.0055未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満 (0.01未満)	0.01未満

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.1	0.05	0.006未満(0.001未満)	0.0024未満
窒素酸化物	ppm	180	90	19(17)	15.3
硫黄酸化物	K値	8	4	0.38未満(0.01未満)	0.12未満

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
キシレン	5,639	1	0		0		5,638	
トルエン	9,535	3	0		0		9,532	
亜鉛の水溶性化合物	7,547	0	15		7,532		0	
モリブデン及びその化合物	1,167	0	0		1,167		0	
ベンゼン	636	1	0		0		635	
エチルベンゼン	1,333	0	0		0		1,333	
合計	25,857	5	15	0	8,699	0	17,138	0

騒音

区分	単位	自主管理目標値	測定実績
昼間	dB	70	63
夕	dB	65	63
夜間	dB	60	59

※栃木県公害防止条例に基づく規制基準

振動

区分	単位	自主管理目標値	測定実績
昼間	dB	70	48
夜間	dB	60	45未満

※栃木県公害防止条例に基づく規制基準

悪臭

項目	単位	自主管理目標値	測定実績
アンモニア	ppm	2	0.1未満

浜松製作所

所在地(住所)：静岡県浜松市中区葵東1-13-1

設立年：1954年

主要製品：四輪オートマチックトランスミッション等

従業員数(2009年3月末現在)：2,917人(細江工場含む)

水の放流先：下水道(生活・工業排水)・伊左地川、段子川(雨水のみ)

ISO14001取得年月：1998年3月

水質

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.0~9.0	5.0~9.0	7.8 (7.2)	7.5
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600	300	139 (30.4)	68.9
化学的酸素要求量(COD)	kg/日	下水道放流のため対象外			
浮遊物質量(SS)	mg/L	600	300	286 (51.2)	97.6
油分含有量	mg/L	35	17.5	1.7 (1.0未満)	0.65
フェノール類	mg/L	5	2.5	0.2未満	0.2未満
銅及びその化合物	mg/L	3	1.5	0.1未満	0.1未満
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1	1.0 (0.23)	0.43
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	1.2 (0.3)	0.75
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	0.1未満	0.1未満
全クロム	mg/L	2	1	0.05未満	0.05未満
フッ素含有量	mg/L	8	4	0.2未満	0.2未満
大腸菌群数	個/cm ³	下水道放流のため対象外			
窒素含有量	mg/L	240	120	20.4 (11.9)	16.2
燐含有量	mg/L	32	16	0.77	0.77
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
シアン化合物	mg/L	1	0.5	0.01未満	0.01未満
有機燐化合物	mg/L	1	0.5	0.05未満	0.05未満
鉛及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.25	0.05未満	0.05未満
砒素及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.005未満	0.005未満
水銀及びその化合物	mg/L	0.005	0.0025	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.003	0.0015	0.0005未満	0.0005未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0.15	0.002未満	0.002未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.1	0.05	0.0005未満	0.0005未満
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.02	0.004未満	0.004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.2	0.04未満	0.04未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	3	1.5	0.0005未満	0.0005未満
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.03	0.006未満	0.006未満
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
チウラム	mg/L	0.06	0.03	0.006未満	0.006未満
シマジン	mg/L	0.03	0.015	0.003未満	0.003未満
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
ベンゼン	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
よう素消費量	mg/L	220	110	7.3	7.3
ほう素及びその化合物	mg/L	10	5	0.01未満	0.01未満
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	10	5	1.4	1.4

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.20	0.1	0.02未満	0.02未満
		0.25	0.13	0.02未満	0.02未満
		0.30	0.15	0.02未満	0.02未満
窒素酸化物	ppm	150	75	73 (21)	48.3
		180	90	62 (13)	40.8
		250	125	45.0	45.0
塩化水素	mg/Nm ³	700	350	88未満	88未満
		80	40	1.3未満 (0.8未満)	1.05未満
硫黄酸化物	Nm ³ /h	2.22	1.11	0.06未満	0.06未満
ダイオキシン類	ng-TEQ/Nm ³	5	2.5	0.15	0.15
		10	5	0.033	0.033

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
エチルベンゼン	2,351	59	0	0	0	149	0	2,143
エチレングリコール	14,775	0	0	0	0	0	0	14,775
キシレン	16,829	107	0	0	0	695	0	16,027
1,3,5-トリメチルベンゼン	1,046	0	0	0	0	0	0	1,046
トルエン	29,104	236	0	0	0	1,093	0	27,775
ニッケル化合物	821	0	0	1	320	0	0	500
ベンゼン	843	1	0	0	0	81	0	761
合計	65,769	403	0	1	320	2,018	0	63,027
ダイオキシン類(単位:mg-TEQ)								

騒音

区分	単位	自主管理目標値	測定実績
昼間	dB	70	66
夕	dB	65	64
夜間	dB	60	59

振動

区分	単位	自主管理目標値	測定実績
昼間	dB	70	45
夜間	dB	65	41

悪臭

項目	単位	規制値	自主管理目標値	測定実績(最大)
東門	臭気指数	10	10	10未満
汎用門	臭気指数	10	10	10未満
北門	臭気指数	10	10	10未満
南門	臭気指数	10	10	10未満

※2002年1月より、基準値は静岡県条例による物質規制より浜松市条例による指数規制(官能試験)に代わっています。

浜松製作所（細江工場）

所在地(住所)：静岡県浜松市北区細江町気賀5794-1

設立年：2001年

主要製品：船外機

従業員数：(浜松製作所に含まれる)

水の放流先：浜名湖(雨水のみ)

水質

(特定施設はありません)

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.10	0.05	0.01未満	0.01未満
窒素酸化物	ppm	150	75	73	57

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
エチルベンゼン	3,434	0	0	0	0	75	0	3,359
キシレン	16,026	0	0	0	0	351	0	15,675
トルエン	25,184	1	0	0	0	551	0	24,632
ベンゼン	1,860	0	0	0	0	41	0	1,819
合計	46,504	1	0	0	0	1,018	0	45,485

騒音

区分	単位	自主管理目標値	測定実績
昼間	dB	55	53
夕	dB	50	49
夜間	dB	45	45

振動

区分	単位	自主管理目標値	測定実績
昼間	dB	65	30未満
夜間	dB	55	30未満

悪臭

項目	単位	規制値	自主管理目標値	測定実績(最大)
アンモニア	ppm	2	2	0.1未満
メチルメルカプタン	ppm	0.002	0.002	0.0002未満
硫化水素	ppm	0.02	0.02	0.001未満
硫化メチル	ppm	0.01	0.01	0.0004未満
二硫化メチル	ppm	0.009	0.009	0.0004未満
トリメチルアミン	ppm	0.02	0.02	0.0005未満
アセトアルデヒド	ppm	0.05	0.05	0.018
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	0.05	0.002未満
スチレン	ppm	0.4	0.4	0.04未満
プロピオン酸	ppm	0.07	0.07	0.003未満
ノルマル酪酸	ppm	0.002	0.002	0.0002未満
イソ吉草酸	ppm	0.004	0.004	0.0002未満
ノルマル吉草酸	ppm	0.002	0.002	0.0002未満
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	0.009	0.0012
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02	0.02	0.002未満
ノルマルバレールアルデヒド	ppm	0.009	0.009	0.0005未満
イソバレールアルデヒド	ppm	0.003	0.003	0.0002未満
イソブタノール	ppm	0.9	0.9	0.09未満
酢酸エチル	ppm	3	3	0.3未満
メチルイソブチルケトン	ppm	1	1	0.1未満
トルエン	ppm	10	10	0.5未満
キシレン	ppm	1	1	0.1未満

鈴鹿製作所

所在地(住所)：三重県鈴鹿市平田町1907
 設立年：1960年
 主要製品：シビック・フィット・インサイト等
 従業員数(2009年3月末現在)：6,943人
 水の放流先：鈴鹿川
 ISO14001取得年月：1998年 2月

水質

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	5.8~8.6	7.2 (6.1)	6.6
生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	最大65平均50	最大58平均45	33 (1)	9
化学的酸素要求量(COD)	kg/日	192.5	173.2	169.6 (61.1)	122.1
浮遊物質(SS)	mg/L	最大90平均70	最大81平均63	72 (6)	19
油分含有量	mg/L	1	0.9	0.9 (0.5未満)	0.5未満
フェノール類	mg/L	1	0.9	0.1未満	0.1未満
銅及びその化合物	mg/L	1	0.9	0.50 (0.01未満)	0.07
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1	0.89 (0.03)	0.21
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	2.4 (0.27)	0.8
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	0.98 (0.26)	0.58
全クロム	mg/L	2	1	0.2未満	0.2未満
フッ素含有量	mg/L	8	4	0.56 (0.8)	1.37
大腸菌群数	個/cm ³	3,000	1,500	260 (10未満)	18
窒素含有量	kg/日	214.7	193.2	76.3 (24.2)	39.2
燐含有量	kg/日	21.2	19.0	9.5 (2.6)	4
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
シアン化合物	mg/L	1	0.5	0.05未満	0.05未満
有機燐化合物	mg/L	1	0.5	0.01未満	0.01未満
鉛及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.02	0.01未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.25	0.05未満	0.05未満
砒素及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
水銀及びその化合物	mg/L	0.005	0.0025	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.003	0.0015	0.0005未満	0.0005未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0.15	0.001未満	0.001未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.1	0.05	0.0005未満	0.0005未満
ほう素	mg/L	10	5	0.56 (0.09)	0.25
アンモニア、亜硝酸他化合物	mg/L	380	190	14 (1.8)	5.4

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.20	0.100	0.079 (0.01未満)	0.011
窒素酸化物	ppm	70	35	29 (13)	20.0
		130	65	4 (1)	3.0
		150	75	45 (15)	22.0
		180	90	68 (4)	35.3
		200	100	40 (2)	21.3
		230	115	54 (0.5)	13.6
硫黄酸化物	K値	14.5	7.25	1未満	1未満
ダイオキシン類	ng-TEQ/Nm ³	5	2.5	1.2	1.2

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
亜鉛の水溶性化合物	27,517	0	110	0	5,465	0	0	21,942
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	58,947	0	0	0	273	0	0	58,674
エチルベンゼン	301,653	101,735	0	0	0	132,581	8,812	58,525
エチレンジグリコール	1,438,615	0	0	0	0	0	0	1,438,615
キシレン	724,173	203,440	0	0	0	204,703	24,840	291,190
1,3,5-トリメチルベンゼン	51,163	23,638	0	0	0	23,757	3,768	0
トルエン	718,087	227,696	0	0	0	24,577	20,762	445,052
ニッケル化合物	3,940	0	194	0	1,361	0	0	2,385
ふっ化水素及びその水溶性塩	2,092	40	80	0	1,972	0	0	0
ベンゼン	19,451	49	0	0	0	0	0	19,402
マンガン及びその化合物	8,252	0	819	0	1,230	0	0	6,203
合計	3,353,890	556,598	1,203	0	10,301	385,618	58,182	2,341,988
ダイオキシン類(単位:mg-TEQ)	93	85	0	0	8	0	0	0

騒音

項目	単位	規制値	自主管理目標値	測定実績(最大)
朝	dB	65	65	61
朝(学校横)	dB	60	60	57
昼	dB	70	70	61
昼(学校横)	dB	65	65	63
夕	dB	65	65	61
夕(学校横)	dB	60	60	57
夜	dB	60	60	58
夜(学校横)	dB	55	55	54

※三重県条例値

振動

項目	単位	規制値(協定値含む)	自主管理目標値	測定実績(最大)
昼	dB	65	65	33
夜	dB	60	60	34

※三重県条例値

悪臭

項目	単位	規制値	自主管理目標値	測定実績(最大)
アンモニア	ppm	1	0.5	0.1未満
メチルメルカプタン	ppm	0.002	0.001	0.0002未満
硫化水素	ppm	0.02	0.01	0.002未満
硫化メチル	ppm	0.01	0.005	0.001未満
二硫化メチル	ppm	0.009	0.0045	0.0009未満
トリメチルアミン	ppm	0.005	0.0025	0.0005未満
アセトアルデヒド	ppm	0.05	0.025	0.005未満
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	0.025	0.005未満
プロピオン酸	ppm	0.03	0.015	0.003未満
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	0.0045	0.0009未満
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02	0.01	0.002未満
ノルマルバレールアルデヒド	ppm	0.009	0.0045	0.0003未満
イソバレールアルデヒド	ppm	0.003	0.0015	0.0003未満
イソブタノール	ppm	0.9	0.45	0.04
酢酸エチル	ppm	3	1.5	0.10
メチルイソブチルケトン	ppm	1	0.5	0.06
トルエン	ppm	10	5	0.10
スチレン	ppm	0.4	0.2	0.04未満
キシレン	ppm	1	0.5	0.07
ノルマル酪酸	ppm	0.001	0.0005	0.0002
ノルマル吉草酸	ppm	0.0009	0.00045	0.0001未満
イソ吉草酸	ppm	0.001	0.0005	0.0001未満

熊本製作所

所在地(住所)：熊本県菊池郡大津町平川1500

設立年：1976年

主要製品：オートバイ、軽自動車用エンジン、汎用エンジン、乗用車用トランスミッション等

従業員数(2009年3月末現在)：3,251人

水の放流先：日向川經由合志川經由菊池川

ISO14001取得年月：1997年11月

水質

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	6.5~7.9	7.8 (7.4)	7.6
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	最大10、平均7	3.5	2.8 (0.5未満)	0.99
浮遊物質(SS)	kg/日	最大15、平均10	5	4.0 (1.0未満)	2.1
油分含有量	mg/L	最大1.5、平均1	0.5	0.5未満	0.5未満
フェノール類	mg/L	最大0.075、平均0.05	0.025	0.01未満	0.01未満
銅及びその化合物	mg/L	最大0.45、平均0.3	0.15	0.05 (0.02未満)	0.02未満
亜鉛及びその化合物	mg/L	最大2、平均1.5	0.75	0.3 (0.1)	0.14
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	最大4.5、平均3	1.5	0.12 (0.05未満)	0.061
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
全クロム	mg/L	最大0.15、平均0.1	0.05	0.02 (0.01未満)	0.01未満
フッ素含有量	mg/L	8	4	0.2未満	0.2未満
大腸菌群数	個/cm ³	3,000	1,500	62	62
窒素含有量	mg/L	最大120、平均60	30	11 (2.5)	6.2
燐含有量	mg/L	8	4	1.4 (0.42)	0.9
カドミウム及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
シアン化合物	mg/L	0.1	0.05	0.05未満	0.05未満
有機燐化合物	mg/L	0.1	0.1	0.05未満	0.05未満
鉛及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
六価クロム化合物	mg/L	最大0.075、平均0.05	0.04	0.02未満	0.02未満
砒素及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
水銀及びその化合物	mg/L	0.0005	0.0005	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.0005	0.0005	0.0005未満	0.0005未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.03	0.015	0.003未満	0.003未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.01	0.005	0.001未満	0.001未満
ジクロロメタン	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
四塩化炭素	mg/L	0.002	0.001	0.0002未満	0.0002未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004	0.002	0.0004未満	0.0004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04	0.02	0.004未満	0.004未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.3	0.15	0.03未満	0.03未満
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.006	0.003	0.0006未満	0.0006未満
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.002	0.001	0.0002未満	0.0002未満
チウラム	mg/L	0.006	0.003	0.0006未満	0.0006未満
シマジン	mg/L	0.003	0.0015	0.0003未満	0.0003未満
チオベンカルブ	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	mg/L	0.01	0.005	0.001未満	0.001未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.025	0.009 (0.001未満)	0.002
		0.1	0.05	0.004 (0.001未満)	0.001未満
窒素酸化物	ppm	150	75	46 (16)	34
		180	90	61 (9)	24
		230	115	53 (5未満)	7
		600	300	155 (122)	139

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
キシレン	225,878	79,147	0	0	0	99,096	3,331	44,304
トルエン	94,461	20,885	0	0	0	20,354	272	52,950
エチルベンゼン	15,055	7,457	0	0	0	501	55	7,042
エチレンジクロール	83,949	0	0	0	0	0	0	83,949
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	1,272	4	0	0	0	83	0	1,185
テトラヒドロメチル無水フタル酸	4,685	0	0	0	0	286	0	4,399
合計	425,300	107,493	0	0	0	120,320	3,658	193,829

騒音

区分	単位	自主管理目標値	測定実績
昼間	dB	62	45.1
夕	dB	62	41.5
夜間	dB	55	35.4

振動

区分	単位	自主管理目標値	測定値
昼間	dB	65	26.5
夜間	dB	60	20.9

悪臭

項目	単位	自主管理目標値	測定実績 (平均値)
アンモニア	ppm	1	0.1 未満
メチルメルカプタン	ppm	0.002	0.0002 未満
硫化水素	ppm	0.02	0.0009
硫化メチル	ppm	0.01	0.0005 未満
二硫化メチル	ppm	0.009	0.0009 未満
トリメチルアミン	ppm	0.005	0.0005 未満
アセトアルデヒド	ppm	0.05	0.002 未満
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	0.002 未満
スチレン	ppm	0.4	0.018
プロピオン酸	ppm	0.03	0.005 未満
ノルマル酪酸	ppm	0.003	0.0002 未満
イソ吉草酸	ppm	0.0005	0.0002 未満
ノルマル吉草酸	ppm	0.00045	0.0002 未満
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	0.0009 未満
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02	0.002 未満
ノルマルバレルアルデヒド	ppm	0.009	0.0009 未満
イソバレルアルデヒド	ppm	0.003	0.0003 未満
イソブタノール	ppm	0.9	0.01 未満
酢酸エチル	ppm	3	0.018
メチルイソブチルケトン	ppm	1	0.013
トルエン	ppm	10	0.018
キシレン	ppm	1	0.01 未満

四輪新機種センター

所在地(住所)：栃木県塩谷郡高根沢町大字上高根沢2900
 設立年：1995年
 主要業務：燃料電池車の製造および四輪車の製造技術サポート
 従業員数(2009年3月末現在)：501人
 水の放流先：芳賀工業団地処理センター経由野元川

水質

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	5.8~8.6	8.2 (6.7)	7.6
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25	12.5	4.0 (1.0未満)	2.0
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	25	12.5	17.1 (3.3)	8.2
浮遊物質(SS)	mg/L	50	25	14.0 (1.0未満)	3.7
油分含有量	mg/L	5	2.5	1.0 (0.5未満)	0.6
フェノール類	mg/L	1	0.5	0.1未満	0.1未満
銅及びその化合物	mg/L	3	1.5	0.1未満	0.1未満
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1	0.4 (0.01未満)	0.1
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	1.5	0.13 (0.1)	0.1
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	1.5	0.2 (0.05)	0.1
全クロム	mg/L	2	1	0.1未満	0.1未満
フッ素含有量	mg/L	8	4	3.3 (0.2未満)	0.7
大腸菌群数	個/cm ³	3,000	1,500	0.0	0.0
窒素含有量	mg/L	20	14	21.0 (4.5)	11.4
燐含有量	mg/L	2	1	1.7	0.5
カドミウム及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
シアン化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
有機燐化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
鉛及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
六価クロム化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
砒素及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
水銀及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
トリクロロエチレン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
テトラクロロエチレン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満(不検出)	0.01未満
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.01	0.001未満	0.001未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.02	0.004未満(不検出)	0.002未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満(不検出)	0.01未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.2	0.04未満(不検出)	0.02未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.03	0.006未満(不検出)	0.003未満
1,3-ジクロロプロパン	mg/L	0.02	0.01	0.002未満(不検出)	0.001未満
チウラム	mg/L	0.06	0.03	0.006未満	0.006未満
シマジン	mg/L	0.03	0.015	0.003未満	0.003未満
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
ベンゼン	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.1	0.05	0.002未満	0.001未満
		0.2	0.1	0.004未満	0.003未満
窒素酸化物	ppm	150	75	35	29.0
		230	115	58	50.0
硫黄酸化物	K値	7	3.5	0.018未満	0.0065未満

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
キシレン	1,611	336	0		106		168	1,001
トルエン	2,893	550	0		172		272	1,899
合計	4,504	886	0	0	278	0	440	2,900

騒音

区分	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績 (最大)
朝・夕	dB	60	60	47
昼間	dB	65	65	59
夜間	dB	50	50	43

※栃木県公害防止条例に基づく規制基準

振動

区分	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績 (最大)
昼間	dB	65	65	47
夜間	dB	60	50	30以下

※栃木県公害防止条例に基づく規制基準

悪臭

項目	単位	規制値	自主管理目標値	測定実績 (最大)
メチルメルカプタン	ppm	0.002	0.002	0.001未満
硫化水素	ppm	0.02	0.02	0.002未満
硫化メチル	ppm	0.01	0.01	0.001未満
二硫化メチル	ppm	0.009	0.009	0.0009未満
トリメチルアミン	ppm	0.005	0.005	0.001未満
アンモニア	ppm	1	1	0.1未満
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	0.05	0.005未満
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	0.009	0.005未満
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02	0.02	0.005未満
ノルマルバレールアルデヒド	ppm	0.009	0.009	0.0028未満
イソバレールアルデヒド	ppm	0.003	0.003	0.0028未満
イソブタノール	ppm	0.9	0.9	0.09未満
酢酸エチル	ppm	3	3	0.3未満
トルエン	ppm	10	10	0.1未満
キシレン	ppm	1	1	0.1未満
メチルイソブチルケトン	ppm	1	1	0.1未満
スチレン	ppm	0.4	0.4	0.04未満
アセトアルデヒド	ppm	0.05	0.05	0.007未満

※1. 悪臭防止法に基づく規制基準(シアン廃液処理時の副生成物)
 2. 官能試験法による栃木県悪臭防止対策指導要綱

品質改革センター【栃木】

所在地(住所)：栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台52-1
 設立年：2003年4月
 主要業務：品質に関わる市場問題への対応及び認定取得業務
 従業員数(2009年3月末現在)：783人
 水の放流先：芳賀工業団地排水処理センター經由野元川

水質

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	5.8~8.6	8.3 (7.0)	7.5
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25	12.5	2.6 (0.5未満)	0.7
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	25	12.5	7.4 (0.5未満)	4.0
浮遊物質量(SS)	mg/L	50	25	16 (0.5未満)	0.7
油分含有量	mg/L	5	2.5	0.8 (0.1)	0.5
フェノール類	mg/L	1	0.5	0.05未満	0.05未満
銅及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1	0.13 (0.05未満)	0.08
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	1.5	0.06 (0.05未満)	0.05
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	1.5	0.03 (0.01未満)	0.01
全クロム	mg/L	2	1	0.02未満	0.02未満
フッ素含有量	mg/L	8	4	0.2 (0.2未満)	0.2
大腸菌群数	個/cm ³	3,000	1,500	350 (0)	25
窒素含有量	mg/L	20	10	6.1 (1.1)	3.1
燐含有量	mg/L	2	1	0.46 (0.08)	0.09
カドミウム及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
シアン化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
有機燐化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
鉛及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
六価クロム化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
砒素及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
水銀及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
トリクロロエチレン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
テトラクロロエチレン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.1	0.002未満	0.002未満
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.02	0.0004未満	0.0004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.1	0.002未満	0.002未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.2	0.004未満	0.004未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.03	0.0006未満	0.0006未満
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
チウラム	mg/L	0.06	0.03	0.001未満	0.001未満
シマジン	mg/L	0.03	0.015	0.001未満	0.001未満
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.1	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	mg/L	0.1	0.05	0.001未満	0.001未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.3	0.15	0.005未満	0.005未満
窒素酸化物	ppm	180	90	36 (26)	29.8
硫酸酸化物	K値	7	3.5	0.1未満	0.1未満

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
ベンゼン	618	1					617	
トルエン	16,606	6					16,600	
キシレン	6,832	1					6,831	
エチルベンゼン	1,489	0					1,489	
合計	25,545	8	0	0	0	0	25,537	0

騒音

区分	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績 (最大)
朝	dB	60	60	50
昼間	dB	65	65	51
夕	dB	60	60	48

※栃木県公害防止条例に基づく規制基準

振動

区分	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績 (最大)
昼間	dB	65	65	30以下
夜間	dB	60	60	30以下

※栃木県公害防止条例に基づく規制基準

悪臭

項目	単位	規制値	自主管理目標値	測定実績 (最大)
メチルメルカプタン	ppm	0.002	0.002	0.001未満
硫化水素	ppm	0.02	0.02	0.002未満
硫化メチル	ppm	0.01	0.01	0.001未満
二硫化メチル	ppm	0.009	0.009	0.001未満
トリメチルアミン	ppm	0.005	0.005	0.001未満
アンモニア	ppm	1	1	0.1未満
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	0.05	0.005未満
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	0.009	0.003未満
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02	0.02	0.003未満
ノルマルバレールアルデヒド	ppm	0.009	0.009	0.003未満
イソバレールアルデヒド	ppm	0.003	0.003	0.002未満
イソブタノール	ppm	0.9	0.9	0.09未満
酢酸エチル	ppm	3	3	0.3未満
トルエン	ppm	10	10	1未満
キシレン	ppm	1	1	0.1未満
メチルイソブチルケトン	ppm	1	1	0.1未満
スチレン	ppm	0.4	0.4	0.04未満
アセトアルデヒド	ppm	0.05	0.05	0.005未満
プロピオン酸	ppm	0.03	0.03	0.003未満
ノルマル酪酸	ppm	0.001	0.001	0.0005未満
ノルマル吉草酸	ppm	0.0009	0.0009	0.0005未満
イソ吉草酸	ppm	0.001	0.001	0.0005未満

株式会社本田技術研究所

四輪R&Dセンター(和光) 基礎技術研究センター 航空機エンジンR&Dセンター

所在地(住所)：埼玉県和光市中央1-4-1

設立年：1960年 本田技研工業(株)より分離

主要業務：四輪車のデザイン研究、各種基礎研究開発、航空エンジン開発

水の放流先：荒川右岸流域下水道新河岸川処理センター(下水道)

水質

項目	単位	規制値	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.0~9.0	5.0~9.0	8.9 (7.8)	8.4
生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600	300	240 (36)	94
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	下水道放流のため対象外			
浮遊物質量(SS)	mg/L	600	300	180 (71)	107
油分含有量	mg/L	30	15	7.5 (2.0未満)	3.4
フェノール類	mg/L	5	2.5	0.5未満	0.5未満
銅及びその化合物	mg/L	3	1.5	0.1未満	0.1未満
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1	0.2	0.2
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	1未満	1未満
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	1未満	1未満
全クロム	mg/L	2	1	0.1未満	0.1未満
フッ素含有量	mg/L	8	4	1未満	1未満
大腸菌群数	個/cm ³	下水道放流のため対象外			
窒素含有量	mg/L	240	120	57 (24)	40
燐含有量	mg/L	32	16	3 (1未満)	1.4
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
シアン化合物	mg/L	1	0.5	0.1未満	0.1未満
有機燐化合物	mg/L	1	0.5	0.1未満	0.1未満
鉛及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.25	0.05未満	0.05未満
砒素及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
水銀及びその化合物	mg/L	0.005	0.0025	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.003	0.0015	0.0005未満	0.0005未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0.15	0.02未満	0.02未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.02	0.004未満	0.004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.2	0.04未満	0.04未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	3	1.5	0.02未満	0.02未満
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.03	0.005未満	0.005未満
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
チウラム	mg/L	0.06	0.03	0.006未満	0.006未満
シマジン	mg/L	0.03	0.015	0.003未満	0.003未満
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
ベンゼン	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満

大気

項目	単位	規制値	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
窒素酸化物	ppm	150	75	64(12)	26
硫黄酸化物	K値	9	4.5	0.2未満	0.2未満

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
エチルベンゼン	1,022	138	0	0	73	0	811	0
キシレン	5,227	707	0	0	362	0	4,158	0
トルエン	9,041	670	0	0	762	0	7,609	0
合計	15,290	1,515	0	0	1,197	0	12,578	0

騒音

区分(測定日)	時間帯	法基準	測定実績
第3種区域(準工業地域) 2009年3月16日	朝AM6:00~AM8:00	60ホン	—
	昼AM8:00~PM7:00	65ホン	56ホン
	夕PM7:00~PM10:00	60ホン	54ホン
	夜PM10:00~翌朝AM6:00	50ホン	49ホン

※法基準を社内基準にしています

振動

区分(測定日)	時間帯	法基準	測定実績
第3種区域(準工業地域) 2009年3月13日	昼間AM8:00~PM8:00	65デシベル	40デシベル
	夜間PM8:00~AM8:00	60デシベル	—

※法基準を社内基準にしています

悪臭

臭気指数

臭気指数規制区域	単位	基準値	測定実績
A区域	なし	15	10未満

※ 平成18年10月1日より埼玉県が悪臭規制法に変更があり、和光市は従来の物質濃度規制地域から臭気指数規制地域に移行しました。
従って規制基準は臭気指数15が適用となり、物質濃度数値は以後参考値として記載します。

物質濃度

項目	単位	法基準	測定実績(参考)
アンモニア	ppm	1	0.1未満
メチルメルカプタン	ppm	0.002	0.0002未満
硫化水素	ppm	0.02	0.002未満
硫化メチル	ppm	0.01	0.001未満
二硫化メチル	ppm	0.009	0.001未満
トリメチルアミン	ppm	0.005	0.0005未満
アセトアルデヒド	ppm	0.05	0.005未満
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	—
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	—
イソブチルアルデヒド	ppm	0.03	—
ノルマルバレールアルデヒド	ppm	0.009	—
イソバレールアルデヒド	ppm	0.003	—
イソブタノール	ppm	0.9	0.1未満
酢酸エチル	ppm	3	0.3未満
メチルイソブチルケトン	ppm	1	0.1未満
トルエン	ppm	10	0.1未満
スチレン	ppm	0.4	0.05未満
キシレン	ppm	1	0.1未満
プロピオン酸	ppm	0.03	—
ノルマル酪酸	ppm	0.001	—
ノルマル吉草酸	ppm	0.0009	—
イソ吉草酸	ppm	0.001	—

二輪R&Dセンター／汎用R&Dセンター

所在地(住所)：埼玉県朝霞市泉水3-15-1
 設立年：1973年
 主要業務：二輪製品、汎用製品の研究開発
 水の放流先：荒川右岸流域下水道新河岸川処理センター(下水道)

水質

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.0～9.0	5.0～9.0	8.9 (6.2)	8.3
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600	300	400 (25)	167
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	下水道放流のため対象外			
浮遊物質(SS)	mg/L	600	300	310 (10)	134.9
油分含有量	mg/L	30	15	18 (1)	6.1
フェノール類	mg/L	5	2.5	0.44 (0.098)	0.26
銅及びその化合物	mg/L	3	1.5	0.02 (0.01)	0.03
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1	0.22 (0.06)	0.15
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	0.13 (0.04)	0.18
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	0.03 (不検出)	0.004
全クロム	mg/L	2	1	不検出	不検出
フッ素含有量	mg/L	8	4	0.3 (不検出)	1未満
大腸菌群数	個/cm ³	下水道放流のため対象外			
窒素含有量	mg/L	240	120	187 (13)	80.1
燐含有量	mg/L	32	16	14.2 (0.8)	6.0
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	不検出	不検出
シアン化合物	mg/L	1	0.5	不検出	0.1未満
有機燐化合物	mg/L	1	0.5	不検出	不検出
鉛及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	不検出	0.05未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.25	不検出	不検出
砒素及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	不検出	不検出
水銀及びその化合物	mg/L	0.005	0.0025	不検出	不検出
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	検出限界以下	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.003	0.0015	不検出	不検出
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0.15	不検出	不検出
テトラクロロエチレン	mg/L	0.1	0.05	不検出	不検出
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.1	不検出	不検出
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.01	不検出	不検出
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.02	不検出	不検出
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.1	不検出	不検出
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.2	不検出	不検出
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	3	1.5	不検出	不検出
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.03	不検出	不検出
1,3-ジクロロプロパン	mg/L	0.02	0.01	不検出	不検出
チウラム	mg/L	0.06	0.03	不検出	不検出
シマジン	mg/L	0.03	0.015	不検出	不検出
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.1	不検出	不検出
ベンゼン	mg/L	0.1	0.05	不検出	不検出
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	不検出	不検出

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.1	0.05	0.005未満(同)	0.005未満
窒素酸化物	ppm	150	75	30(24)	26
硫黄酸化物	K値	9	4.5	0.003(0.0016)	0.0026

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
エチルベンゼン	11,954	130	0	0	473	0	11,349	0
キシレン	57,129	248	0	0	1,615	0	55,265	0
トルエン	99,768	790	0	0	3,137	0	95,841	0
ベンゼン	3,752	1	0	0	79	0	3,671	0
合計	172,603	1,169	0	0	5,304	0	166,126	0

騒音

区分(測定日)	時間帯	法基準	測定実績
第3種区域(準工業地域) 2008年11月26日	朝AM6:00~AM8:00	60ホン	51ホン
	昼AM8:00~PM7:00	65ホン	59ホン
	夕PM7:00~PM10:00	60ホン	53ホン
	夜PM10:00~翌朝AM6:00	50ホン	49ホン

※法基準を社内基準にしています

振動

区分(測定日)	時間帯	法基準	測定実績
第3種区域(準工業地域) 2008年6月4日	昼間AM8:00~PM8:00	65デシベル	44デシベル
	夜間PM8:00~AM8:00	60デシベル	30デシベル未満

※法基準を社内基準にしています

悪臭

臭気指数

臭気指数規制区域	単位	基準値	測定実績
A区域	なし	15	10未満

※ 平成18年10月1日より埼玉県の悪臭規制法に変更があり、朝霞市は従来の物質濃度規制地域から臭気指数規制地域に移行しました。従って規制基準は臭気指数15が適用となり、物質濃度数値は以後参考値として記載します。

物質濃度

項目	単位	法基準	測定実績(参考)
アンモニア	ppm	1	0.1未満
メチルメルカプタン	ppm	0.002	0.0004未満
硫化水素	ppm	0.02	0.001未満
硫化メチル	ppm	0.01	0.001未満
二硫化メチル	ppm	0.009	0.001未満
トリメチルアミン	ppm	0.005	0.0005未満
アセトアルデヒド	ppm	0.05	0.001未満
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	0.001未満
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	0.001未満
イソブチルアルデヒド	ppm	0.03	0.001未満
ノルマルパレルアルデヒド	ppm	0.009	0.001未満
イソパレルアルデヒド	ppm	0.003	0.001未満
イソブタノール	ppm	0.9	0.1未満
酢酸エチル	ppm	3	0.1未満
メチルイソブチルケトン	ppm	1	0.1未満
トルエン	ppm	10	0.1未満
スチレン	ppm	1	0.01未満
キシレン	ppm	1	0.1未満
プロピオン酸	ppm	0.03	0.005未満
ノルマル酪酸	ppm	0.001	0.0005未満
ノルマル吉草酸	ppm	0.0009	0.0005未満
イソ吉草酸	ppm	0.001	0.0005未満

四輪R&Dセンター (栃木／栃木プルービングセンター)

所在地(住所)：栃木県芳賀郡芳賀町下高根沢4630番地

設立年：1982年

主要業務：四輪製品の研究開発(エンジン、ボディおよびシャーシの設計、試作、テスト)

水の放流先：芳賀工業団地処理センター経由野元川(生活・工業排水)

水質

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.0 (6.7)	7.5
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25	12.5	2.4 (0.2)	0.9
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	25	12.5	7.4 (0.8)	5.6
浮遊物質量(SS)	mg/L	50	25	5.8 (0.2)	1.6
油分含有量	mg/L	5	2.5	0.9 (0.1)	0.5
フェノール類	mg/L	1	0.5	0.05未満	0.05未満
銅及びその化合物	mg/L	3	1.5	0.1未満	0.1未満
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1	0.1未満	0.1未満
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	1.5	0.05未満	0.05未満
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	1.5	0.01未満	0.01未満
全クロム	mg/L	2	1	0.02未満	0.02未満
フッ素含有量	mg/L	8	4	0.2未満	0.2未満
大腸菌群数	個/cm ³	3,000	1,500	110 (0)	5.00
窒素含有量	mg/L	20	10	20 (5.9)	11.0
燐含有量	mg/L	2	1	0.3 (0.1)	0.15
カドミウム及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
シアン化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
有機燐化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
鉛及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
六価クロム化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
砒素及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
水銀及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
トリクロロエチレン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
テトラクロロエチレン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.1	0.002未満	0.002未満
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.01	0.001未満	0.001未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.02	0.0004未満	0.0004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.1	0.002未満	0.002未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.2	0.004未満	0.004未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.03	0.0006未満	0.0006未満
1,3-ジクロロプロパン	mg/L	0.02	0.01	0.0002未満	0.0002未満
チウラム	mg/L	0.06	0.03	0.001未満	0.001未満
シマジン	mg/L	0.03	0.015	0.001未満	0.001未満
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.1	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	mg/L	0.1	0.05	0.001未満	0.001未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.3	0.15	0.001未満	0.001未満
窒素酸化物	ppm	180	90	54 (25.5)	37.8
硫黄酸化物	K値	7	3.5	0.25 (0.01)	0.059

PRTR対象物質

項目	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
トルエン	739,943	2,118	0	0	1,279	0	736,545	0
キシレン	325,441	1,408	0	0	1,670	0	322,363	0
エチルベンゼン	45,495	140	0	0	51	0	45,304	0
1,3,5-トリメチルベンゼン	6,702	14	0	0	0	0	6,687	0
ベンゼン	3,420	12	0	0	72	0	3,337	0
合計	1,121,001	3,691	0	0	3,072	0	1,114,237	0

騒音

区分(測定日)	時間帯	法基準	公害防止協定値	測定実績
工業専用地域 2008年11月5日	朝AM6:00~AM8:00	75ホン	65ホン	47ホン
	昼AM8:00~PM7:00	70ホン	60ホン	49ホン
	夕PM7:00~PM10:00	70ホン	60ホン	53ホン
	夜PM10:00~翌朝AM6:00	60ホン	50ホン	44ホン

※法基準：栃木県生活環境の保全等に関する県条例
 公害防止協定：芳賀町・高根沢町との公害防止協定

振動

区分(測定日)	時間帯	法基準	公害防止協定値	測定実績
工業専用地域 2008年11月5日	昼間AM8:00~PM8:00	65デシベル	65デシベル	35デシベル
	夜間PM8:00~AM8:00	60デシベル	60デシベル	30デシベル

※法基準：栃木県生活環境の保全等に関する県条例
 公害防止協定：芳賀町・高根沢町との公害防止協定

悪臭

項目	濃度 (ppm)		
	規制値	自主管理値	測定実績
アンモニア	2	1	0.1
メチルメルカプタン	0.004	0.002	0.001 未満
硫化水素	0.06	0.03	0.002 未満
硫化メチル	0.05	0.025	0.001 未満
二硫化メチル	0.03	0.015	0.0009 未満
トリメチルアミン	0.02	0.01	0.001 未満
アセトアルデヒド	0.1	0.05	0.007 未満
プロピオンアルデヒド	0.1	0.05	0.005 未満
ノルマルブチルアルデヒド	0.03	0.015	0.005 未満
イソブチルアルデヒド	0.07	0.035	0.005 未満
ノルマルバレールアルデヒド	0.02	0.01	0.0028 未満
イソバレールアルデヒド	0.006	0.003	0.0028 未満
イソブタノール	4	2	0.09 未満
酢酸エチル	7	3.5	0.3 未満
メチルイソブチルケトン	3	1.5	0.1 未満
トルエン	30	15	0.1 未満
スチレン	0.8	0.4	0.04 未満
キシレン	2	1	0.1 未満
プロピオン酸	0.07	0.035	0.0005 未満
ノルマル酪酸	0.002	0.001	0.0005 未満
ノルマル吉草酸	0.002	0.001	0.0005 未満
イソ吉草酸	0.004	0.002	0.0005 未満

※ 四輪R&Dセンターにおいては法に基づく特定施設はありませんが、自主的に管理測定しています。
臭気強度3.0に対応する地域の規制値を基本としています。

測定項目	臭気指数(臭気濃度)
臭気指数(臭気濃度)参考測定	10未満 (10未満)

四輪R&Dセンター （鷹栖ブルーピングセンター）

所在地(住所)：北海道上川郡鷹栖町21線10号

設立年：1996年

主要業務：二輪製品、四輪製品、汎用製品の研究開発(テストコース)

水の放流先：シユマム川

水質

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	ph	5.8~8.6	5.8~8.6	6.7	6.7
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	160	80	6.9	6.9
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	160	80	5.5	5.5
浮遊物質(SS)	mg/L	200	100	120	120
油分含有量	mg/L	5	2.5	2.0未満	2.0未満
フェノール類	mg/L	3	1.5	0.5未満	0.5未満
銅及びその化合物	mg/L	3	1.5	0.05未満	0.05未満
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1	0.13	0.13
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	0.1未満	0.1未満
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	10	5	0.1未満	0.1未満
全クロム	mg/L	2	1	0.05未満	0.05未満
フッ素含有量	mg/L	8	4	0.2未満	0.2未満
大腸菌群数	個/cm ³	3000	1500	不検出	不検出
窒素含有量	mg/L	120	60	1.0	1.0
燐含有量	mg/L	16	8	0.1	0.1
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
シアン化合物	mg/L	1	0.5	0.1未満	0.1未満
有機燐化合物	mg/L	1	0.5	0.1未満	0.1未満
鉛及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.02未満	0.02未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.25	0.05未満	0.05未満
砒素及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
水銀及びその化合物	mg/L	0.005	0.0025	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.003	0.0015	0.0005未満	0.0005未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0.15	0.03未満	0.03未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.02	0.004未満	0.004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.2	0.04未満	0.04未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	3	1.5	0.3未満	0.3未満
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.03	0.006未満	0.006未満
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.02	0.01	0.002未満	0.002未満
チウラム	mg/L	0.06	0.03	0.006未満	0.006未満
シマジン	mg/L	0.03	0.015	0.003未満	0.003未満
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.1	0.02未満	0.02未満
ベンゼン	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.05	0.01未満	0.01未満

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.3	0.15	0.01未満	0.01未満
窒素酸化物	ppm	180	90	70	70
硫黄酸化物	K値	7	3.5	0未満	0未満

PRTR対象物質

物質名	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
キシレン	17,321	1	0	0	0	0	17,320	0
トルエン	35,275	7	0	0	0	0	35,268	0
ベンゼン	1,241	1	0	0	0	0	1,240	0
合計	53,837	8	0	0	0	0	53,829	0

騒音

区分(測定日)	時間帯	自主規制値	測定実績
指定区域外 2008年8月7日	朝AM6:00～AM8:00	50ホン	40ホン
	昼AM8:00～PM6:00	60ホン	48ホン
	夕PM6:00～PM10:00	50ホン	39ホン
	夜PM10:00～翌朝AM6:00	45ホン	37ホン

ホンダエンジニアリング株式会社

所在地(住所)：栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台 6-1
 設立年：1990年
 主要業務：一般機械器具製造業(工作機械、金型、機能部品の開発・設計・製造)
 水の放流先：芳賀工業団地処理センター経由野元川(生活・工業排水)
 ISO14001取得年月：1997年7月

水質

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	5.8~8.6	8.0 (7.4)	7.6
生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25	17.5	5.8 (0.5未満)	0.8
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	25	17.5	7.4 (0.5未満)	2.4
浮遊物質(SS)	mg/L	50	35	1.6 (1未満)	1.1
油分含有量	mg/L	5.0	3.5	1.0未満	1
フェノール類	mg/L	1	0.7	0.05未満	0.05
銅及びその化合物	mg/L	3	2.1	0.05未満	0.05未満
亜鉛及びその化合物	mg/L	2	1.4	0.26 (0.05未満)	0.1
鉄及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	2.1	0.26 (0.05未満)	0.06
マンガン及びその化合物(溶解性)	mg/L	3	2.1	0.02 (0.01)	0.01
全クロム	mg/L	2	1.4	0.02未満	0.02未満
フッ素含有量	mg/L	8	5.6	0.2未満	0.2未満
大腸菌群数	個/cm ³	3,000	2,100	0	0
窒素含有量	mg/L	20	14	6.6 (0.19)	2.7
燐含有量	mg/L	2	1.4	0.18 (0.05未満)	0.09
カドミウム及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
シアン化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
有機燐化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
鉛及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
六価クロム化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
砒素及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
水銀及びその化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
アルキル水銀化合物	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
トリクロロエチレン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
テトラクロロエチレン	mg/L	検出されないこと	不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.14	0.002未満	0.002未満
四塩化炭素	mg/L	0.02	0.014	0.001未満	0.001未満
1, 2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	0.028	0.0004未満	0.0004未満
1, 1-ジクロロエチレン	mg/L	0.2	0.14	0.002未満	0.002未満
シス-1, 2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.28	0.004未満	0.004未満
1, 1, 1-トリクロロエタン	mg/L	3	2.1	0.001未満	0.001未満
1, 1, 2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	0.042	0.0006未満	0.0006未満
1, 3-ジクロロプロペン	mg/L	0.02	0.014	0.0002未満	0.0002未満
チウラム	mg/L	0.06	0.042	0.001未満	0.001未満
シマジン	mg/L	0.03	0.021	0.001未満	0.001未満
チオベンカルブ	mg/L	0.2	0.14	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	mg/L	0.1	0.07	0.001未満	0.001未満
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	0.07	0.01未満	0.01未満
ほう素	mg/L	10	7	0.5 (0.1未満)	0.2
アンモニア、亜硝酸他化合物	mg/L	100	70	4.5 (3.5)	4.05

大気

項目	単位	規制値 (協定値含む)	自主管理目標値	測定実績	
				最大(最小)	平均値
ばいじん	g/Nm ³	0.2	0.14	0.075未満	0.009未満
窒素酸化物	ppm	180	126	97 (5未満)	50.7
塩化水素	g/Nm ³	40	28	3.2 (2.8)	3.0
硫酸酸化物	Nm ³ /h	1.51	1.1	0.23未満 (0.015未満)	0.04

PRTR対象物質

物質名	取扱量	排出量		移動量		リサイクル	除去処理量	消費量 (製品移行量)
		大気排出	公共用 水域排出	下水道	社外 廃棄物処理			
ニッケル化合物	1,111	0	0	0	731	0	0	240
合計	1,111	0	0	0	731	0	0	240

騒音

区分	単位	自主管理目標値	測定実績
昼間	dB	65	52
夕	dB	60	50
夜間	dB	50	45

振動

区分	単位	自主管理目標値	測定実績
昼間	dB	65	30未満
夜間	dB	60	30未満

悪臭

項目	単位	自主管理目標値	測定実績
アンモニア	ppm	1	0.1未満
メチルメルカプタン	ppm	0.002	0.001未満
硫化水素	ppm	0.02	0.002未満
硫化メチル	ppm	0.01	0.001未満
二硫化メチル	ppm	0.009	0.001未満
トリメチルアミン	ppm	0.005	0.001未満
アセトアルデヒド	ppm	0.05	0.005未満
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05	0.005未満
スチレン	ppm	0.4	0.04未満
プロピオン酸	ppm	0.03	0.003未満
ノルマル酪酸	ppm	0.001	0.001未満
イソ吉草酸	ppm	0.001	0.001未満
ノルマル吉草酸	ppm	0.0009	0.0009未満
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009	0.003未満
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02	0.003未満
ノルマルバレルアルデヒド	ppm	0.009	0.003未満
イソバレルアルデヒド	ppm	0.003	0.003未満
イソブタノール	ppm	0.9	0.009未満
酢酸エチル	ppm	3	0.3未満
メチルイソブチルケトン	ppm	1	0.1未満
トルエン	ppm	10	1未満
キシレン	ppm	1	0.1未満

PRTR対象物質(生産領域)

2008年度 本田技研工業(株) PRTR対象物質^{※1}(生産領域)

(単位: kg)

政令番号 ^{※2}	CAS番号	物質名	取扱量	排出量計			下水道 ^{※6}	社外廃棄物処理 ^{※3 ※6}	移動量
				大気排出 ^{※6}	公共用水域排出 ^{※6}				
1	—	亜鉛の水溶性化合物	62,802	0	125	125	277	17,435	17,712
30	25068-38-6	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	86,622	4	0	4	0	2,462	2,462
40	100-41-4	エチルベンゼン	679,185	270,960	0	270,960	0	0	0
43	107-21-1	エチレンジグリコール	3,030,259	0	0	0	0	0	0
63	1330-20-7	キシレン	1,807,348	529,274	0	529,274	0	0	0
202	11070-44-3		4,685	0	0	0	0	0	0
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	109,490	54,719	0	54,719	0	0	0
227	108-88-3	トルエン	1,766,871	571,285	0	571,285	0	0	0
232	—	ニッケル化合物 ^{※5}	9,958	0	194	194	1,196	2,564	3,760
283	—	ふっ化水素及びその水溶性塩	2,092	40	80	120	0	1,972	1,972
299	71-43-2	ベンゼン ^{※5}	42,247	57	0	57	0	0	0
307	—	ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル	2,100	0	0	0	210	1,512	1,722
310	50-00-0	ホルムアルデヒド	1,707	1,707	0	1,707	0	0	0
311	—	マンガン及びその化合物	21,377	0	819	819	656	6,480	7,136
346	—	モリブデン及びその化合物	1,167	0	0	0	0	1,167	1,167
合計			7,627,910	1,428,046	1,218	1,429,264	2,339	33,592	35,931
179	—	ダイオキシン類(単位: mg-TEQ) ^{※5}	160.96	85.68	0.00	85.68	0.00	75.28	75.28

(単位: kg)

政令番号 ^{※6}	CAS番号	物質名	リサイクル ^{※4}	除去処理量	消費量(製品移行量)
1	—	亜鉛の水溶性化合物	0	0	44,965
30	25068-38-6	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	83	199	83,874
40	100-41-4	エチルベンゼン	260,677	29,629	117,919
43	107-21-1	エチレンジグリコール	0	0	3,030,259
63	1330-20-7	キシレン	611,116	78,947	588,011
202	11070-44-3		286	0	4,399
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	23,757	9,167	21,847
227	108-88-3	トルエン	65,406	98,082	1,032,098
232	—	ニッケル化合物 ^{※5}	0	0	6,004
283	—	ふっ化水素及びその水溶性塩	0	0	0
299	71-43-2	ベンゼン ^{※5}	122	1,737	40,331
307	—	ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル	0	378	0
310	50-00-0	ホルムアルデヒド	0	0	0
311	—	マンガン及びその化合物	0	0	13,422
346	—	モリブデン及びその化合物	0	0	0
合計			961,447	218,139	4,983,129
179	—	ダイオキシン類(単位: mg-TEQ) ^{※5}	0.00	0.00	0.00

※1 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化学物質管理促進法)の第1種指定化学物質354物質を対象に調査、取扱量1,000kg以上の物質
 ※2 化学物質管理促進法の第1種指定化学物質の番号
 ※3 費用を支払いリサイクルしている量
 ※4 リサイクル業者へ売却している量
 ※5 特定第一種化学物質
 ※6 PRTR法に基づく届け出項目

注) 取扱量の「—」は反応生成物質のため該当しません

各事業所地下水測定結果

地下水

2008年度各事業所地下水測定結果

測定項目	法基準値	埼玉製作所	栃木製作所	浜松製作所	鈴鹿製作所	熊本製作所	四輪新機種センター
カドミウム	0.01mg/L以下	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
全シアン	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
有機リン	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
鉛	0.01mg/L以下	0.004	0.001未満	0.005未満	0.005未満	0.001未満	0.005未満
六価クロム	0.05mg/L以下	0.005未満	0.005未満	0.02未満	0.04未満	0.04未満	0.005未満
ヒ素	0.01mg/L以下	0.001未満	0.001未満	0.005未満	0.005未満	0.001未満	0.001未満
総水銀	0.0005mg/L以下	0.0001未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
PCB	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満
四塩化炭素	0.002mg/L以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.0005未満	0.0002未満	0.0002未満
1、2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満
1、1-ジクロロエチレン	0.02mg/L以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満
cis-1、2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	0.004未満	0.004未満	0.004未満	0.004未満	0.004未満	0.004未満
1、1、1-トリクロロエタン	1.0mg/L以下	0.001未満	0.0005未満	0.0005未満	0.001未満	0.0005未満	0.0005未満
1、1、2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満
トリクロロエチレン	0.03mg/L以下	0.001	0.004	0.008	0.002未満	0.002未満	0.001未満
テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下	0.001	0.0041	0.0027	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満
1、3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
チラウム	0.006mg/L以下	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満
シマジン	0.003mg/L以下	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満
チオベンカルブ	0.02mg/L以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	0.01mg/L以下	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
セレン	0.01mg/L以下	0.001未満	0.001未満	0.002未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
フッ素	0.8mg/L以下	0.21	0.2未満	0.08未満	0.1未満	0.08未満	0.2未満
ホウ素	1.0mg/L以下	0.1未満	0.1未満	0.05未満	0.04	0.01未満	0.1未満

測定項目	法基準値	品質改革センター-栃木	四輪R&Dセンター(和光)ほか	二輪R&Dセンター-ほか	四輪R&Dセンター(栃木)	ホンダエンジニアリング
カドミウム	0.01mg/L以下	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
全シアン	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
有機リン	検出されないこと	不検出	不検出	0.1未満	不検出	不検出
鉛	0.01mg/L以下	0.003	0.001未満	0.005未満	0.001未満	0.006
六価クロム	0.05mg/L以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満
ヒ素	0.01mg/L以下	0.001未満	0.001未満	0.002未満	0.001未満	0.002
総水銀	0.0005mg/L以下	0.0005未満	0.00005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
PCB	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	0.002未満	0.002未満	0.001未満	0.002未満	0.002未満
四塩化炭素	0.002mg/L以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0001未満	0.0002未満	0.0002未満
1、2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	0.0004未満	0.0004未満	0.0001未満	0.0004未満	0.0004未満
1、1-ジクロロエチレン	0.02mg/L以下	0.002未満	0.002未満	0.001未満	0.002未満	0.002未満
cis-1、2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	0.004未満	0.004未満	0.001未満	0.004未満	0.004未満
1、1、1-トリクロロエタン	1.0mg/L以下	0.001未満	0.001未満	0.0005未満	0.001未満	0.001未満
1、1、2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下	0.0006未満	0.0006未満	0.0001未満	0.0006未満	0.0006未満
トリクロロエチレン	0.03mg/L以下	0.001未満	0.003未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下	0.0005未満	0.001未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0008
1、3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下	0.0002未満	0.0004	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
チラウム	0.006mg/L以下	0.0006未満	0.0006未満	0.0002未満	0.0006未満	0.0006未満
シマジン	0.003mg/L以下	0.0003未満	0.0003未満	0.0002未満	0.0003未満	0.0003未満
チオベンカルブ	0.02mg/L以下	0.002未満	0.002未満	0.0002未満	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	0.01mg/L以下	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
セレン	0.01mg/L以下	0.001未満	0.001未満	0.002未満	0.001未満	0.001未満
フッ素	0.8mg/L以下	0.2未満	0.08未満	0.2	0.08未満	0.2未満
ホウ素	1.0mg/L以下	0.1未満	0.1未満	0.03	0.1未満	0.1未満

社会活動実績データ

低公害車フェア等への協力・支援実績

2008年度 低公害車フェア等への協力・支援実績

開催月	イベント名	開催地区
4月	ホンダ・エアポートフェスティバル 2008	埼玉県比企郡
5月	エコプロダクツ2008 in 神戸	兵庫県神戸市
	渋谷DEども'08	東京都渋谷区
	エコカーワールド 2008 in KOBE	兵庫県神戸市
	環境フェア in KOBE	兵庫県神戸市
6月	エコカーワールド 2008 横浜	神奈川県横浜市
	札幌環境総合展	北海道札幌市
7月	ひたち環境フェスタ2008	茨城県日立市
	所沢市役所 環境アピール展	埼玉県所沢市
	首都大学東京 都市教養プログラム 先端材料化学入門 特別公開講義展示	東京都八王子市
	G8 北海道洞爺湖サミット 2008	北海道洞爺湖
8月	巨理町環境フェア	宮崎県
	環境広場サッポロ	札幌
	牛久未来エコフェスタ	茨城県牛久市
9月	K&コンパクトフェスティバル in 浜松 2008秋	静岡県浜松市
	エコカーフェア埼玉 2008	埼玉県さいたま市
10月	とやま環境フェア	富山県高岡市
	宮崎市環境フェア	宮崎県宮崎市
	佐賀バルーンフェスタ	佐賀県佐賀市
	御殿場市おもてなしイベント	静岡県御殿場市
	栃木県「エコ・もりフェア」	栃木県宇都宮市
	戸田市 とだ環境フェア 2008	埼玉県戸田市
	山口いきいきエコフェア	山口県山口市
栃木県マイカービックフェスティバル	栃木県宇都宮市	
11月	茨城県地球温暖化防止推進フェア	栃木県土浦市
	省エネルギー ALL IN!	広島県呉市
	省エネルギー ALL IN!	広島県府中町
12月	京都市環境フェスティバル 2008	京都府京都市
	第2回富士市環境フェア	静岡県富士市
	エコプロダクツ 2008	東京都江東区
	高松市地球温暖化防止展	香川県高松市
1月	ホンダカーズ新潟大感謝祭(テクノロジー説明コーナー)	新潟県新潟市
2月	環境フェスタ in 交野2009	大阪府交野市
3月	ホンダカーズ三重北鈴鹿道伯店オープンイベント	三重県鈴鹿市

地域との共生活動実績

2008年度 地域との共生活動実績(環境イベント関連)

事業所	内容	参加人数	実施月
埼玉製作所	工業団地清掃デー	120	毎月
	駅までの通勤路の美化活動	130	毎週
	フリーマーケット	2,000	6月
	自治会「花運動植栽」参加	200	6月、11月
	「水源の森」整備事業	88	6月、10月
	黒松林の樹種転換	75	2月、9月
	真夏の祭典(エコ狭山開催)	41,000	8月
	入間川クリーン作戦参加	1,528	3月
	近隣自治会長様との懇談会	30	12月
栃木製作所	クリーンUP作戦	501	6月
	環境展in秋祭り	350	9月
	近隣自治体工場見学受入れ	473	随時
	QCT24H 駅伝まつり(協賛)		7月
	真岡パートナーシップ会議(大久保川)	60	6月、11月、2月
	真岡パートナーシップ会議(環境学習会)	95	6月
浜松製作所	浜名湖クリーン作戦	805	6月
	Mss環境展(夏まつり)	6,061	8月
	静岡環境・森林フェア	36,452	11月
	環境取材・見学会	188	4月、10月
	第9回、第10回森林保全活動	67	5月、10月
	自治会等との懇談会	70	1月
	工場周辺清掃活動	433	奇数月
	ふるさとの森イベント	132	5月、7月、10月、2月
	佐鳴湖流域一斉水質調査	80	2月
	佐鳴湖ヨシ刈り	105	11月
	佐鳴湖ごみ拾いウォーキング	440	10月、12月、2月
	ビーチクリーン	114	9月、10月、11月、3月
鈴鹿製作所	クリーン作戦	1,169	6月、10月、3月
	Sss爽風会イベント 秋日祭	140	10月
	隣接自治会会長様との懇談会	9	12月
	21世紀リーディング産業展	7,094	11月
	森林保全活動	43	11月
	環境施設見学会(一般)		随時

事業所	内容	参加人数	実施月
熊本製作所	環境月間クリーン作戦	1,933	6月
	大津町環境美化運動	1,741	10月
	地域懇談会	24	7月、12月
	植林活動(草刈)	77	7月
	植林活動(植林)	95	12月
	ビーチクリーン	363	5月、6月、7月、9月、10月、11月
四輪新機種センター	五行川水辺環境整備事業協力	500	7月
	クリーン作戦	54	5月、7月、12月、3月
	高根沢町商工祭(たかねビア秋祭り)	2,000	11月
	上高根沢町地区情報交換会	36	8月、3月
	「高根沢たんたんライブ」参加	300	10月
	熱気球ふれあいin高根沢	600	7月、12月
品質改革センター	足尾植林ボランティア	12	4月、7月
	環境展in24Hマラソン祭り	266	7月
	クリーン作戦	33	5月、7月、12月、3月
	TSS環境展in秋祭り(協賛)	3	9月
	環境施設見学会	16	6月
(株)本田技術研究所 四輪R&Dセンター(和光) 基礎技術研究センター 航空機エンジンR&Dセンター	環境展	600	6月
	徒歩通勤路清掃活動	45	6月、11月、3月
(株)本田技術研究所 二輪R&Dセンター 汎用R&Dセンター	通勤路クリーン活動	90	10月、3月
	環境展	1,600	6月
	朝霞市市民祭(彩夏祭り)	15,000	8月
(株)本田技術研究所 四輪開発センター(栃木) (栃木ブルーピンググラウンド)	クリーン作戦	57	6月、9月、1月
	環境展(Honda祭り)	1,500	10月
(株)本田技術研究所 四輪開発センター (鷹栖ブルーピンググラウンド)	環境展(Honda秋祭り)	200	10月
	敷地周辺草刈・清掃	97	6月~8月
	鷹栖熱夏フェスタ	15	8月
	テストコース見学	70	随時
ホンダエンジニアリング(株)	クリーン作戦	45	6月、8月、12月、3月
	環境展 秋彩祭同時開催	400	10月
	中古パソコンの地域リユース	562	6月、8月、2月
	芳賀町と環境コミュニケーション		依頼時
	環境工場見学会	30	9月

NGO、環境関連基金等への支援実績

2008年度 NGO、環境関連基金等への支援実績

支援先	支援内容	実施月	実施地域
沙漠植林ボランティア協会	寄付	4月	
(財)オイスカ	山梨県小菅村「水源の森」保全活動	7月、10月	山梨県小菅村
(財)オイスカ	埼玉県寄居町「水源の森」保全活動	4月	埼玉県寄居町
(財)阿蘇グリーンストック	熊本県阿蘇市「水源の森」保全活動	10月	熊本県阿蘇市
菊池森林組合	熊本県大津町「水源の森」保全活動	4月、7月、12月	熊本県大津町
CCC自然・文化創造工場	群馬県みなかみ町「水源の森」保全活動	6月、10月	群馬県みなかみ町
CCC自然・文化創造工場	群馬県赤城山「水源の森」保全活動	9月、11月	群馬県富士見村
CCC自然・文化創造工場	栃木県足尾町「水源の森」保全活動	4月、7月	栃木県足尾町
NPO森林の風	三重県亀山市「水源の森」保全活動	11月、3月	三重県亀山市
国土緑化推進機構	緑の募金への協力	5月	全国

環境関連の受賞実績

2008年度 海外での環境関連の受賞実績

受賞名	主催	受賞者	国名	受賞年月
「第2回国家環境友好工程」	中国環境保護省	東風ホンダ	中国	2008.7
第5回中華宝鋼環境賞「企業環境保護優秀賞」	中華環境保護基金	東風ホンダ	中国	2008.12
「広州市環境友好企業」の称号	広州市	広州ホンダ	中国	2009.3
「アイドリングストップシステム用ISGベルトシステムの研究」で、米国自動車学会論文賞受賞	米国自動車学会	(株)本田技術研究所	アメリカ	

2008年度 国内での環境関連の受賞実績

受賞名	主催	受賞者	受賞年月
「第11回環境報告書賞」優秀賞	(株)東洋経済新報社	本田技研工業(株)	2008.5
「ランキンサイクルを用いた車載用廃熱回収システムの研究」が、第58回自動車技術会賞「論文賞」受賞	社団法人自動車技術会	(株)本田技術研究所	2008.5
「車室内VOC低減技術の開発」が、自動車技術会優秀講演発表賞受賞	社団法人自動車技術会	(株)本田技術研究所	2008.5
「アルミホイールの軽量化技術、および高効率生産技術の開発」で、日本塑性加工学会「技術開発賞」受賞	日本塑性加工学会	(株)本田技術研究所 ホンダエンジニアリング(株)	2008.5

各領域責任者

営業領域	四輪.....	守屋 富志広
	関口 直行
	二輪.....	永田 実
	汎用.....	田中 一郎
	サービス・部品.....	新井 康司
購買領域	リサイクル推進室.....	小林 秀明
	関 幸浩
事業所領域	事業所環境総合責任者	
	埼玉製作所.....	小野 重雄
	栃木製作所.....	青波 宏一
	浜松製作所.....	大西 唯之
	鈴鹿製作所.....	味岡 正臣
	熊本製作所.....	桶谷 真二
	四輪新機種センター.....	太田 孝一
	品質改革センター栃木.....	荻谷 幸広
	本 社.....	永田 春記
	(株)本田技術研究所	
	四輪R&Dセンター(和光)/	
	基礎技術研究センター/	
	航空機エンジンR&Dセンター.....	青山 章
	二輪R&Dセンター/汎用R&Dセンター.....	中村 文彦
	四輪R&Dセンター(栃木).....	築田 准
	四輪R&Dセンター(鷹栖ブルービンググラウンド).....	河合 浩二
	ホンダエンジニアリング(株).....	桜井 倍博
物流領域	製品及びKD部品.....	中井 俊英
管理領域	総務.....	永田 春記
	人事.....	小沼 信哉
	広報.....	和田 康裕
事務局	環境安全企画室.....	篠原 道雄

注) 2009年6月1日現在

第三者認証について

以下の理由により第三者認証の取得はしていません。

1. 第三者認証に関するガイドラインが制定されていない。
2. 認証機関の資格要件が不明確。

現在、Hondaとして上項の進展に関心をはらいつつ、第三者認証の内容、導入時期などについて、検討を継続しています。

なお当レポートの実績については、各実行部門が取りまとめを行い、日本環境会議の体制の中で承認を得ています。また、各生産事業所に関するデータは、専門家による各事業所間相互訪問環境監査およびISO14001のサーベイランスで確認を受けています。

お問い合わせ

- 内容に対するお問い合わせ先
環境安全企画室
Tel.03-5412-1155 / Fax.03-5412-1154
- 本レポートのお申し込み先
お客様相談センター Tel.0120-112010
(受付時間：9時～12時/13時～17時)

本レポートはHondaのウェブサイトでもご覧になれます。下記、URLにてダウンロード可能となっておりますので、是非ご覧下さい。

<http://www.honda.co.jp/environmental-report/>

なお、本レポートの更新情報は上記のウェブサイトを確認できます。

環境シンボルマークについて



このシンボルマークは、緑の美しい大地にそよぐ風、生命を育む青く澄み切った水、永遠に輝く太陽をイメージしており、Hondaが地球環境保全へ積極的に取り組んでいることを宣言した世界統一の環境マークです。



本田技研工業株式会社
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
発行2009年6月

本冊子は、不要となったHondaの旧カタログ等を製紙原料として
配合したHonda独自の循環紙を使用しています。